

平成26年度（平成25年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

平成26年9月

田辺市教育委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 教育委員会の概要	2
3. 教育委員会の点検・評価の概要	10
4. 教育委員会に係る事務事業の点検・評価の結果について	12
5. 事務事業評価シート.....	14
(1) 人を大切にするまちづくり	14
ア. 人権意識の向上を図ります	
①人権学習の推進	
(2) 子どもをはぐくむまちづくり	16
ア. 学校教育を充実します	
①教育内容の充実	
②開かれた学校づくり	
③健康と学校給食の充実	
④教育環境の充実	
イ. 青少年の健全育成を推進します	
①学校・家庭・地域の連携による健全育成環境の整備	
②健全育成活動の充実	
(3) 文化のかおるまちづくり	24
ア. 郷土の歴史を学び、後世へ伝承します	
①郷土が生んだ偉人の顕彰	
イ. ふるさと文化の振興を図ります	
①芸術文化の振興・発展	

ウ. 文化財を保護します	
①世界遺産の保全・継承	
(4) 学びを支えるまちづくり	29
ア. 生涯学習の振興を図ります	
①学習機会の充実	
②学社融合の推進	
③学習環境の充実	
イ. 生涯スポーツの振興を図ります	
①スポーツ・レクリエーション支援体制の充実	
②スポーツ・レクリエーション機会の充実	
(5) 国際化に対応するまちづくり	36
ア. 国際交流を推進します	
①国際交流体制の充実	
6. 田辺市教育委員会事務事業点検評価委員会の意見等について	38
7. おわりに	52

1. はじめに

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、地域の教育に対する責務を再認識するとともに、透明性を高め、説明責任を果たしていくことが求められており、教育行政事務の管理及び執行の状況について、毎年、点検・評価を実施し、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されています。

田辺市教育委員会では、法の趣旨に基づき、平成25年度に実施した事務事業について点検・評価を行い、事業目標に対する達成状況や今後の課題等を明らかにするとともに、学識経験を有する方々からも様々なご意見等をいただき、本報告書として取りまとめました。

今後とも、田辺市教育行政基本方針に基づいて、より効果的な教育行政の推進に努めてまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成26年9月

田辺市教育委員会

◎地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一条の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

◎平成25年度田辺市教育行政基本方針

1. 各地域の教育実践を尊重しながら、教育改革を推進するとともに、市民一人ひとりがいつでも、どこでも学べる生涯学習社会の構築に努める。
2. 学社融合を推進して、学校・家庭・地域の教育力向上を図るとともに、三者一体となって青少年の健全育成に取り組む体制をつくり、地域の特色ある教育づくりに努める。
3. 教育委員会の活性化を図り、教育委員会機能を強化するとともに、教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、教育行政の充実に努める。
4. 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスがとれた児童生徒の育成を目指し、学校運営体制の確立、学習指導法の改善、生徒指導の充実に図り、保護者・地域から安心して信頼して子どもを託される質の高い教育を保证する学校づくりに努める。
5. 学校施設の安全性の確保を図るため、早期耐震化に向けた取組を進める。
6. 人権を尊重し、文化を愛し、スポーツに親しみ、家庭や郷土・国を愛する教養のある人間の育成を目指して、市民が自主的・主体的に学習する活動を奨励援助するとともに、市民の学習機会の拡充を図り、社会教育の充実発展に努める。
7. 古い歴史と美しい海山の自然に感謝し、歴史遺産を保護するとともに伝統文化の継承と新しい文化の創造並びに学術・芸術の奨励振興を図り、文化のかおるまちづくりに努める。
8. 平成27年開催の「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」に向けて、大会開催の機運を高めるため、広報・啓発活動を展開するとともに、円滑な競技運営に向けた開催準備を進める。

2. 教育委員会の概要

(1) 教育委員（5人、任期4年）

職名	氏名	就任年月日
教育委員長	廣本喜亮	平成17年5月1日
委員長職務代理者	向井孝	平成19年7月20日
委員	玉置信彦	平成21年7月20日
委員	松上京子	平成25年7月20日
委員（教育長）	中村久仁生	平成18年7月20日

(2) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議については、原則として毎月第2水曜日に「教育委員会定例会」を開催し、7月、1月、2月、3月に開催した「教育委員会臨時会」と併せて、合計16回開催しました。

①教育委員会定例会… 12回

②教育委員会臨時会… 4回

(3) 教育委員会会議での審議・報告状況

教育委員会会議では、合計36件の議案について審議しました。

議案審議の内容は、次のとおりです。

①教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針…………… 2件

②教育予算、条例の制定及び改廃その他議会の議決を経るべき
事項について意見申出…………… 7件

③教育委員会関係規則等の制定及び改廃…………… 5件

④教育委員会及び教育委員会所管の附属機関の委員の任命・委嘱、
その他人事に関する事項…………… 15件

⑤学校教育関係事項…………… 2件

⑥表彰に関する事項…………… 1件

⑦その他教育委員会に関わる重要事項…………… 4件

※議案審議案件のほか、教育委員会に関わる事項92件について報告しました。

(4) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員は、教育委員会会議への出席以外に、下記のとおり会議・研修会、各種行事・大会、学校教育関係の活動に参加しました。

①会議・研修会

- ・平成25年度和歌山県市町村教育委員会連絡協議会定期総会（6月・和歌山市）
- ・平成25年度和歌山県都市教育委員長協議会（7月・紀の川市）
- ・和歌山県市町村教育委員会連絡協議会夏季研修会（9月・白浜町）

②各種行事・大会

- ・子どもクラブ育成協議会総会（4月・市民総合センター）
- ・第37回市民体育祭（4月～8月・市民体育センターほか）
- ・第23回南方熊楠賞授賞式（5月・紀南文化会館）
- ・子どもクラブ夏の親善体育大会（6月・神島台グラウンド・上秋津若もの広場）
- ・田辺市青少年育成市民会議総会（6月・市民総合センター）
- ・紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会実行委員会 常任委員会 総会
（6月・紀南文化会館）
- ・田辺市青少年育成市民大会（7月・紀南文化会館）
- ・芳養地区納涼ちびっこ角力大会（8月・芳養児童公園）
- ・第17回融合フォーラム in 和歌山 2013（兼）田辺市学社融合研修会
（8月・紀南文化会館）
- ・第9回市民スポーツ・レクリエーション祭（9～11月・田辺市体育センター）
- ・第60回田辺市美術展覧会開会式 表彰式（10月・紀南文化会館ほか）
- ・第60回記念田辺市美術展覧会龍神展開会式（10月・林業者等健康増進センター）
- ・田辺市立近的弓道場竣工記念式典（10月・田辺市立弓道場）
- ・「成人の日」記念式典（1月・紀南文化会館）
- ・新春田辺長距離走大会（1月・大塔水辺の楽校）
- ・田辺市民駅伝、田辺市子どもクラブ駅伝競走大会
（2月・大塔中学校グラウンドほか）
- ・田辺市スポーツ賞授賞式（3月・市民総合センター）

③学校教育関係

- ・中辺路小学校開校式
- ・平成25年度当初校長、教頭、園長会（4月・紀南文化会館）
- ・各小学校、中学校入学式（4月）
- ・小学校訪問（5月～11月・28校）
- ・中学校訪問（6月～11月・15校）
- ・幼稚園訪問（7月～10月・4園）
- ・夏季校長・教頭・園長・園主任会（8月・東部公民館）
- ・各小学校、中学校運動会（9月）
- ・各小学校、中学校卒業式（3月）

平成25年度教育委員会活動実績一覧

月	会議・研修会	各種行事・大会	学校教育関係
4	・定例教育委員会 (市民総合センター)	・子どもクラブ育成協議会総会 (市民総合センター) ・第37回市民体育祭 (田辺市体育センターほか)	・中辺路小学校開校式 ・各小中学校入学式 ・校長・教頭・園長会 (紀南文化会館)
5	・定例教育委員会 (市民総合センター)	・第23回南方熊楠授賞式 (紀南文化会館)	・学校訪問(小学校) (中辺路、会津、上山路、伏菟野、大坊、 芳養、近野、鮎川、龍神)
6	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・和歌山県市町村教育委員会連絡協議会 常任委員会(和歌山市) ・平成25年度和歌山県市町村教育委員会 連絡協議会総会(和歌山市)	・子どもクラブ夏の親善体育大会 (上秋津若もの広場) ・田辺市青少年育成市民会議総会 (市民総合センター) ・紀の国わかやま国体・紀の国わかやま 大会 実行委員会 常任委員会 総会 (紀南文化会館)	・学校訪問(小学校) (上芳養、富里、三川、長野) ・学校訪問(中学校) (秋津川、東陽、中辺路、新庄、高雄)
7	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・平成25年度和歌山県都市教育委員長 協議会 (紀の川市) ・臨時教育委員会 (市民総合センター)	・田辺市青少年育成市民大会 (紀南文化会館)	・幼稚園訪問 (新庄)
8	・定例教育委員会 (市民総合センター)	・芳養地区納涼ちびっこ角力大会 (芳養児童公園) ・第17回融合フォーラムin和歌山2013 (兼)田辺市学社融合研修会 (紀南文化会館) ・第37回市民体育祭 (田辺市体育センターほか)	・夏季校長・教頭・園長・園主任会 (東部公民館)
9	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・和歌山県市町村教育委員会連絡協議会 夏季研修会 (白浜町)	・第9回市民スポーツ・レクリエーシ ョン祭(田辺市体育センター)	・各小中学校運動会
10	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・近畿市町村教育委員会研修会 (岸和田市)	・第60回田辺市美術展覧会開会式 表彰式 (紀南文化会館ほか) ・第60回記念田辺市美術展覧会龍神展 開会式 (林業者等健康増進センター) ・第9回市民スポーツ・レクリエーシ ョン祭(田辺市体育センター) ・田辺市立近的弓道場竣工記念式典 (田辺市立弓道場)	・学校訪問(小学校) (田辺東部、本宮、新庄第二、稲成、田辺 第一、中山路、田辺第二、三栖) ・学校訪問(中学校) (明洋、長野、近野、上秋津、本宮、中芳 養) ・幼稚園訪問 (三栖、上秋津、中芳養)
11	・定例教育委員会 (市民総合センター)	・第9回市民スポーツ・レクリエーシ ョン祭(田辺市体育センター)	・学校訪問(小学校) (上秋津、秋津川、新庄、咲楽、三里、 田辺第三、中芳養) ・学校訪問(中学校) (龍神、大塔、衣笠)
12	・定例教育委員会 (市民総合センター)		
1	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・臨時教育委員会 (市民総合センター)	・「成人の日」記念式典 (紀南文化会館) ・新春田辺長距離走大会 (大塔水辺の楽校)	
2	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・臨時教育委員会 (市民総合センター)	・田辺市民駅伝、田辺市子どもクラブ 駅伝競走大会 (大塔中学校グラウンドほか)	
3	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・臨時教育委員会 (市民総合センター)	・田辺市スポーツ賞授賞式 (市民総合センター)	・各小中学校卒業式

平成25年度教育委員会審議案件一覧

議案番号	件名	審議日	分類
4定議案第1号	田辺市公民館長の任命について	平成25年4月10日	④
4定議案第2号	田辺市生涯学習（人権）推進員の委嘱について		④
4定議案第3号	田辺市スポーツ推進委員の委嘱について		④
4定議案第4号	田辺市文化財審議会委員の委嘱について		④
5定議案第1号	平成25年度6月補正予算見積について	平成25年5月8日	②
5定議案第2号	田辺市児童館及び田辺市教育集会所運営協力委員の委嘱について		④
5定議案第3号	田辺市スポーツ推進委員の委嘱について		④
5定議案第4号	平成25年度田辺市学校評議員・幼稚園評議員の委嘱について		④
5定議案第5号	田辺市立図書館協議会委員の委嘱について		④
5定議案第6号	規則の一部改正について (1) 田辺市教育委員会事務局規則の一部を改正する規則		③
6定議案第1号	田辺市立城山台学校給食センター運営委員会委員の委嘱について	平成25年6月12日	④
7定議案第1号	田辺市スポーツ推進委員の委嘱について	平成25年7月10日	④
7定議案第2号	田辺市立美術館協議会委員並びに作品選定委員会委員の委嘱について		④
7臨議案第1号	教育委員長の選挙について	平成25年7月22日	④
7臨議案第2号	教育委員長職務代理者の指定について		④
8定議案第1号	平成25年度9月補正予算見積について	平成25年8月7日	②
8定議案第2号	田辺市修学奨学生選考委員の委嘱について		④
8定議案第3号	学校給食費滞納者にかかる民事調停について市議会議決を求める件について		②
9定議案第1号	平成25年度教育委員会点検・評価報告書（案）について	平成25年9月11日	⑦
9定議案第2号	規則の一部改正について (1) 田辺市独立行政法人日本スポーツ振興センターの共済掛金のうち保護者から徴収する額を定める規則の一部を改正する規則		③
9定議案第3号	平成25年度「成人の日」記念式典（案）について		⑦
10定議案第1号	平成25年度社会教育功労者表彰について	平成25年10月9日	⑥
11定議案第1号	条例、規則等の一部改正について (1) 田辺市立小学校及び中学校条例の一部を改正する条例 (2) 田辺市立小学校及び中学校の通学区域並びに学校の指定に関する規則の一部を改正する規則 (3) 田辺市立図書館条例の一部を改正する条例 (4) 田辺市文化交流センター条例の一部を改正する条例 (5) 田辺市駐車場条例の一部を改正する条例 (6) 田辺市立歴史民俗資料館条例の一部を改正する条例 (7) 紀南文化会館管理条例の一部を改正する条例 (8) 紀南文化会館管理条例施行規則の一部を改正する規則 (9) 田辺市特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部を改正する要綱 (10) 田辺市体育施設条例の一部を改正する条例	平成25年11月13日	②③
12定議案第1号	平成26年度当初予算の見積について	平成25年12月18日	②
12定議案第2号	平成25年度幼稚園、小・中学校の修了式および卒業式について		⑤
2臨議案第1号	「田辺市立中学校におけるいじめに関する第三者彫塑委員会」調査報告書に係る市長からの検討要請についての報告について	平成26年2月6日	⑦
2定議案第1号	条例、規則の一部改正について (1) 田辺市教育委員会事務局規則の一部を改正する規則 (2) 田辺市立学校給食共同調理場条例施行規則の一部を改正する規則 (3) 田辺市社会教育委員設置条例の一部を改正する条例 (4) 田辺市社会教育委員会議規則の一部を改正する規則 (5) 田辺市体育施設条例の一部を改正する条例 (6) 田辺市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則	平成26年2月12日	②③
2定議案第2号	平成25年度3月補正予算見積について		②
2定議案第3号	平成26年度幼稚園、小・中学校の始業式及び入学式について		⑤
3臨議案第1号	教職員（管理職）人事異動の付議について	平成26年3月5日	④
3臨議案第2号	「田辺市立中学校におけるいじめに関する第三者調査委員会」調査報告書に係る検討内容について（案）		⑦
3定議案第1号	平成26年度田辺市教育行政基本方針（案）について	平成26年3月19日	①
3定議案第2号	平成26年度各課活動方針（案）について		①
3定議案第3号	田辺市指定文化財等補助金交付要綱の一部改正について		③

※分類番号は2ページの（3）教育委員会会議での審議・報告状況による。

平成25年度教育委員会報告事項一覧

報告番号	件名	報告日
4定報告第1号	平成25年3月議会について ・平成25年度当初予算について ・条例の制定及び一部改正について (1) 田辺市修学奨学金貸与条例の制定について (2) 田辺市立学校給食共同調理場条例の一部改正について (3) 田辺市ふるさと文化振興補助金交付審査委員会条例の制定について (4) 田辺市美術展覧会運営委員会条例の制定について	平成25年4月10日
4定報告第2号	規則の一部改正について (1) 田辺市教育委員会事務局規則の一部を改正する規則	
4定報告第3号	平成25年度田辺市まちづくり学びあい講座について	
4定報告第4号	平成24年度学社融合実践集録について	
4定報告第5号	暮らしの便利帳 英語版について	
4定報告第6号	平成24年度生涯学習センター利用者数について	
4定報告第7号	平成24年度わかしお利用者数について	
4定報告第8号	第23回南方熊楠賞授賞式について	
5定報告第1号	紀南ユネスコ協会 講演会について	平成25年5月8日
5定報告第2号	田辺国際交流協会 国際理解公演会について	
5定報告第3号	第21回文協フェスティバルの開催について	
6定報告第1号	平成25年度『田辺っ子ふれあい交流』について	平成25年6月12日
6定報告第2号	市長ふれあい公民館～教室・サークル訪問～について	
6定報告第3号	田辺市子どもクラブ育成協議会 第11回田辺市ドッジボール大会について	
6定報告第4号	平成25年度子どもの国際理解推進事業「アメリカンまつりに行こら！」について	
6定報告第5号	平成25年度田辺市PTA連合会の役員について	
6定報告第6号	国体開催準備の進捗状況について	
6定報告第7号	「山下泰資(チロ)・木野雅之(ガイリソ)・清水和音(ヒア) ゴールデン・トリオコンサート」について	
6定報告第8号	「京フィルとあそぼう！ ～はじめてのクラシックコンサート～」について	
6定報告第9号	田辺市子どもクラブ育成協議会 第54回夏の親善体育大会の結果について	
7定報告第1号	平成25年6月議会について ・平成25年6月補正予算について ・教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて ・一般質問について	平成25年7月10日
7定報告第2号	1学期の生徒指導状況について	
7定報告第3号	夏季休業中における園・学校教育関係行事について	
7定報告第4号	第17回融合フォーラムin和歌山2013(兼)田辺市学社融合研修会について	
7定報告第5号	「田辺市生涯学習推進計画」平成24年度実績報告について	
7定報告第6号	田辺市子どもクラブ育成協議会 第11回田辺市ドッジボール大会の結果について	
7定報告第7号	平成25年度田辺市青少年育成市民会議の役員について	
7定報告第8号	平成25年度田辺市青少年健全育成市民大会について	
7定報告第9号	新・純邦楽ユニット「WASABI(ワサビ)」コンサートの開催について	
7定報告第10号	第60回田辺市美術展覧会開催要項について	
7定報告第11号	平成25年度第23回自然生活へのチャレンジ推進事業について	
7定報告第12号	田辺市立城山台学校給食センター調理等業務委託事業入札結果について	

報告番号	件名	報告日
8定報告第1号	人事異動について	平成25年8月7日
8定報告第2号	平成25年度運動会の日程について	
8定報告第3号	第Ⅲ期 田辺市まちづくり市民カレッジの開催について	
8定報告第4号	第16回西牟婁地方ドッジボール大会の結果について	
8定報告第5号	第1回紀の国わかやま国体・大会田辺市市内推進会議の開催について	
9定報告第1号	平成26年度田辺市修学奨学生募集について	平成25年9月11日
9定報告第2号	夏期休業中の園児・児童・生徒の状況について	
9定報告第3号	平成25年度田辺・西牟婁小学校水泳大会結果について	
9定報告第4号	平成25年度生涯学習フェスティバルについて	
9定報告第5号	「少年メッセージ2013」和歌山県大会の結果について	
9定報告第6号	平成25年度和歌山県地域子ども集団親睦交流スポーツ大会（ドッジボール）の結果について	
9定報告第7号	第9回市民スポーツ・レクリエーション祭について	
9定報告第8号	「folkハルト・シュトイデ ヴァイオリン リサイタル」の開催について	
9定報告第9号	「アフリカ音楽 魂の鼓動ROHOシアター公演」の開催について	
10定報告第1号	人事異動について	平成25年10月9日
10定報告第2号	平成25年9月議会について ・工事請負契約の締結について ・民事調停について ・一般質問について	
10定報告第3号	学校開放月間の予定について	
10定報告第4号	第37回市民体育祭の結果について	
10定報告第5号	紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の取組状況について	
10定報告第6号	第56回関西実業団対抗駅伝競走大会について	
10定報告第7号	「田辺市生涯学習推進計画」平成25年度実施計画について	
11定報告第1号	平成25年度田辺・西牟婁小学校陸上競技大会及び田辺・西牟婁中学校新人総合体育大会の結果について	平成25年11月13日
11定報告第2号	平成25年度生涯学習振興大会について	
11定報告第3号	平成25年度生涯学習フェスティバルについて	
11定報告第4号	紀南ユネスコ協会「第18回 絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展について	
11定報告第5号	「公民館 de 縁結び」について	
11定報告第6号	新春ファミリー・コンサート「オーケストラで聴くジブリ音楽」の開催について	
12定報告第1号	田辺市修学奨学生選考結果について	平成25年12月18日
12定報告第2号	近畿公民館大会 公民館全国永年勤続表彰について	
12定報告第3号	「公民館 de 縁結び」の結果について	
12定報告第4号	平成25年度生涯学習フェスティバルの結果について	
12定報告第5号	第88回新春初泳ぎ及び第30回新春初漕ぎについて	
12定報告第6号	第40回新春田辺長距離走大会について	
12定報告第7号	第18回田辺市民駅伝大会及び第31回田辺市子どもクラブ駅伝大会について	
12定報告第8号	第9回市民スポーツ・レクリエーション祭について	
12定報告第9号	「大阪交響楽団 名曲セレクション2014」の開催について	
12定報告第10号	「常田富士男の民話劇場」の開催について	
12定報告第11号	第56回関西実業団対抗駅伝競走大会結果について	

報告番号	件名	報告日
1 定報告第1号	平成25年12月議会について ・条例の制定、一部改正について (1) 住居表示の実施等に伴う関係条例の整理に関する条例 (2) 田辺市立歴史民俗資料館条例の一部を改正する条例 (3) 田辺市龍神市民センター条例の一部を改正する条例 (4) 田辺市龍神ふるさと陶芸館条例の一部を改正する条例 (5) 紀南文化会館管理条例の一部を改正する条例 (6) 田辺市体育施設条例の一部を改正する条例 (7) 田辺市立小学校及び中学校条例の一部を改正する条例 ・平成25年12月補正予算について ・一般質問について	平成26年1月15日
1 定報告第2号	田辺市就学援助要綱の一部改正について	
1 定報告第3号	平成25年度田辺市立幼稚園終業式について	
1 定報告第4号	平成25年度「成人の日」記念式典の結果について	
1 定報告第5号	第40回新春田辺長距離走大会の結果について	
1 定報告第6号	第13回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会出場について	
1 臨報告第1号	田辺市立中学校におけるいじめに関する第三者調査委員会報告書について	平成26年1月19日
2 定報告第1号	人事異動について	
2 定報告第2号	第Ⅲ期 田辺市まちづくり市民カレッジ第7回講座について	
2 定報告第3号	第18回市民駅伝大会及び第31回田辺市子どもクラブ駅伝大会結果について	平成26年2月12日
2 定報告第4号	第38回市民なわとび大会について	
2 定報告第5号	第38回市民体育祭について	
2 定報告第6号	むらづくり龍神カレッジ第3回・第4回講座の開催について	
3 定報告第1号	平成26年度 年度当初校長・教頭・園長会について	
3 定報告第2号	退職校長並びに教頭への感謝状贈呈式について	
3 定報告第3号	平成26年度新規採用教職員辞令交付式について	
3 定報告第4号	学校教育課関係行事予定について	
3 定報告第5号	田辺市少年少女発明クラブについて	平成26年3月19日
3 定報告第6号	第13回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会について	
3 定報告第7号	平成25年度（第25回）田辺市スポーツ賞の選考結果について	
3 定報告第8号	第38回市民なわとび大会の結果について	
3 定報告第9号	第21回おとう生涯学習フェスタについて	

3. 教育委員会の点検・評価の概要

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価することが義務付けられており、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

田辺市教育委員会では、法の趣旨に則り、主要な施策・事業について、点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効率的・効果的な教育行政の一層の推進を図ってまいります。

(2) 実施方法等

教育委員会が平成 25 年度に実施した事務事業の執行状況等について、教育委員会内において点検及び評価を行うとともに、評価等の客観性を高めるため、教育に関し学識経験を有する方々による「田辺市教育委員会事務事業点検評価委員会」（以下「評価委員会」という。）からご意見等をいただき、その結果を報告書として取りまとめ、平成 26 年 9 月議会に提出してまいります。

(3) 点検・評価した事務事業

田辺市のまちづくりの指針として位置付けている第 1 次田辺市総合計画（平成 19 年 3 月策定）では、六つの柱（①人をはぐくむまち ②安心して暮らせるまち ③安全で住みよいまち ④活力みなぎる産業のまち ⑤快適な環境のまち ⑥市民と行政が共につくるまち）をまちづくりの基本方針として定めており、そのうち、教育委員会では「①人をはぐくむまち」について所管しております。

今回、点検・評価する事務事業は、総合計画の基本方針（人をはぐくむまち）に基づく主要な施策（19 事務事業）について、教育委員会内において点検・評価を行い、評価委員会でご意見等をいただきました。

点検・評価した主要な施策	事務事業数
(1) 人を大切にするまちづくり ア. 人権意識の向上を図ります ①人権学習の推進	1
	小計 1
(2) 子どもをはぐくむまちづくり ア. 学校教育を充実します ①教育内容の充実 ②開かれた学校づくり ③健康と学校給食の充実 ④教育環境の充実	2 1 1 1

イ. 青少年の健全育成を推進します ①学校・家庭・地域の連携による健全育成環境の整備 ②健全育成活動の充実	1 1 小計 7
(3) 文化のかおるまちづくり ア. 郷土の歴史を学び、後世へ伝承します ①郷土が生んだ偉人の顕彰 イ. ふるさと文化の振興を図ります ①芸術文化の振興・発展 ウ. 文化財を保護します ①世界遺産の保全・継承	1 2 1 小計 4
(4) 学びを支えるまちづくり ア. 生涯学習の振興を図ります ①学習機会の充実 ②学社融合の推進 ③学習環境の充実 ④学びを通じた地域づくりの推進 イ. 生涯スポーツの振興を図ります ①スポーツ・レクリエーション支援体制の充実 ②スポーツ・レクリエーション機会の充実	1 1 1 1 1 1 1 小計 6
(5) 国際化に対応するまちづくり ア. 国際交流を推進します ①国際交流体制の充実	1 小計 1
合 計	19

(4) 評価の観点

①成果と達成状況

事務事業の成果について、平成 25 年度において達成を目指す目標を示したうえで、達成状況を下記の A～D の 4 段階で評価しました。

(評価判断基準)

A：目標を超えて達成した

B：概ね目標を達成した

C：目標を下回った

D：目標を大きく下回った

②事務事業の課題

事務事業のニーズ、見直し、有効性及び効率性の観点から、それぞれ評価判定を行ったうえで事務事業の課題について総括しました。

(5) 総合評価の方法

事務事業評価シートの各項目に基づいて、教育委員会の各担当課が評価を行い、教育長及び教育次長が当該評価シートを精査した上で、総合評価としました。

4. 教育委員会に係る事務事業の点検・評価の結果について

(1) 総合評価の状況

教育委員会の 19 の事務事業について点検・評価を行った結果、達成状況については、15 の事務事業については、概ね目標は達成したものと評価しています。

また、子どもをはぐくむまちづくりの「開かれた学校づくり推進事業」及び「学校給食の実施」、学びを支えるまちづくりの「学社融合研究事業」及び「田辺市まちづくり市民カレッジ」の 4 つの事務事業については、目標を超えて達成したと評価しました。

(達成状況の評価結果)

A 目標を超えて 達成した	B 概ね目標は 達成した	C 目標を 下回った	D 目標を大きく 下回った
4 (21.1%)	15 (78.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

(2) 事務事業の課題、取組

教育委員会の関わる 19 の主要な事務事業の課題について、「事業ニーズの状況」、「見直しの必要性」、「有効性を高める必要性」、「効率性を高める必要性」の観点から判定したところ、事業ニーズについては、11 事務事業 (57.9%) について事業ニーズは増加していると評価し、横ばいの状況にあるとした事務事業は 8 事務事業 (42.1%) でありました。

(事業ニーズの状況)

区 分	事業数	増 加	横 ば い	減 少
(1) 人を大切にするまちづくり	1	1	0	0
(2) 子供をはぐくむまちづくり	7	3	4	0
(3) 文化のかおるまちづくり	4	2	2	0
(4) 学びを支えるまちづくり	6	4	2	0
(5) 国際化に対応するまちづくり	1	1	0	0
合 計	19	11	8	0

また、事務事業の見直しの必要性が、なし又は当面なしと判定した事務事業は、12 事務事業 (63.2%)、必要性があるとした事務事業は、7 事務事業 (36.8%) となっています。事務事業の有効性と効率性については、13 事務事業 (68.4%) について有効性を高める必要があるとし、また、13 事務事業 (68.4%) について効率性を高める必要があると評価しています。

(見直しの必要性、有効性・効率性を高める必要性)

区 分	事業数	見直しの必要性			有効性を高める必要性			効率性を高める必要性		
		なし	当面なし	あり	なし	当面なし	あり	なし	当面なし	あり
(1) 人を大切にするまちづくり	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1
(2) 子供をはぐくむまちづくり	7	0	5	2	0	3	4	0	3	4
(3) 文化のかおるまちづくり	4	0	3	1	0	2	2	0	1	3
(4) 学びを支えるまちづくり	6	0	3	3	0	1	5	0	2	4
(5) 国際化に対応するまちづくり	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1
合 計	19	0	12	7	0	6	13	0	6	13

上記評価を踏まえて、各担当課では次ページ以降の事務事業評価シートにおいて、より一層効果を高めるための取組や効率的な実施方法などについて「課題の総括」として取りまとめ、今後の課題解決に向けた施策の方向性を示しております。

5. 事務事業評価シート

(1) 人を大切にするまちづくり

◎基本方針

人権を守り、互いに助け合い、明るく平和なまちを実現するため、あらゆる分野において人権尊重の視点に立った取組を進め、人権意識の向上を図ります。

ア. 人権意識の向上を図ります

①人権学習の推進

- ・人権学習の推進

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第1節 人を大切にすまづくり		
		1. 人権意識の向上を図ります		(1) 人権学習の推進		
事業名		人権学習の推進				
事業概要	事業の目的	日本国憲法に保障された基本的人権が守られ、田辺市民憲章に示されている明るく平和なまちづくりを目指すため、市民と行政、公的機関、各種の組織・団体等が互いに協力し、生活の中にある人権に関わる全ての問題の解決に取り組み、学習を深めるための基本的な考え方や方針を策定する。また、それに基づいた教育・啓発を推進する。				
	事業の内容・現状	平成17年10月1日に、田辺市教育委員会において「人を大切にすまづくり」の基本方針を策定。これに基づき、具体的な実践を行うための計画である「人を大切にすまづくり」推進計画を策定し、各公民館を中心とした人権学習を展開している。実施にあたっては、公民館長、主事、生涯学習（人権）推進員が中心となり、各公民館区ごとに各種団体・関係機関等に協力を得ながら、人権学習実行委員会を組織し、学習会の企画・運営等について協議を行うとともに、中央公民館、人権推進課等関係機関・団体との連携を図っている。平成25年度は、生涯学習（人権）推進員会議でテーマを「防災と人権」に設定し、地域の状況も尊重しながら課題に応じた学習会を展開した。				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	教育基本法、社会教育法、田辺市教育基本方針				
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	760	760	報償費	962	国支出金
	決算額(千円)	950	962			県支出金 210
	事業の数値実績	H24年度	H25年度			地方債
	実施会場数	36	29			その他
	延べ参加人数	2,476	2,496			一般財源 752
			計	962	計 962	
上記以外のH25年度の実績	保護者学級を28の小学校で開催し、延べ5,292名が参加。					
目標と達成状況	事業の目標	全20公民館において人権学習会を年1回以上開催し、できるだけ多くの市民に参加してもらえよう、企画、検討しながら内容の充実を図っていく。				
	H24年度の課題に対する取組状況	東日本大震災や当地方の台風被害等々により、市民の防災意識が高まるなか、地域別人権学習会のテーマについてもH24同様「防災と人権」に設定した。防災に対する様々な観点からの学習会となったが、災害弱者（高齢者、障がい者等）に視点をあてた地域が多かった。全体的に防災に対する住民の関心・意識もより一層の高まってきており、参加者も多く充実した学習会となった。				
	目標に対する成果と達成状況	H24同様「防災と人権」を学習のテーマに設定し、東日本大震災や台風災害での教訓を生かした学習会を開催した。防災に対する様々な観点から各地域において学習会を実施したが、災害弱者に視点をあてた公民館が多く、防災学習を通じたなかで改めて「人権」についての認識を深めることができた。防災に対する住民の意識は近年益々高くなってきており、真剣に取り組む参加者が多く充実した学習会となった。		自己評価 (B) A : 目標を超えて達成した B : 概ね目標は達成した C : 目標を下回った D : 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括	
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	大きな課題である「防災」の学習と「人権」についての学習を絡ませることにより、それぞれの認識を深め、一定の成果は得ることができているが、その他の視点からも人権問題の解決に結びつける人権学習会を各地域において取り組んでいく必要がある。人権学習についての基本的な進め方は、現状のままで良いと考えるが、住民参画による企画、立案や幅広い参加者を得るための創意工夫が求められており、興味関心や当事者意識を持ってもらえるようなテーマ設定を行う必要がある。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
総合評価(教育長・次長)	平成24年度から防災と人権をテーマにして取組を進めており、一定の成果を挙げているが、人権に関する他のテーマ設定についても工夫が必要である。また、各地域で公民館が人集めに工夫をこらしながら取り組んでいるが、参加者の層に広がりがないように感じられる。				評価【 B 】 前年度評価 (B)	

(2) 子どもをはぐくむまちづくり

◎基本方針

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体とたくましい体力」のバランスがとれた児童生徒の育成を目指した教育課程の編成と教育活動の充実を図るとともに、学校教育環境や学校給食の充実、学校環境衛生の向上に取り組みます。

また、学校、家庭、地域の連携を図りながら、児童生徒の健全育成を推進します。

ア. 学校教育を充実します

①教育内容の充実

- ・教育内容の充実のための事業
- ・JFA こころのプロジェクト・夢の教室

②開かれた学校づくり

- ・開かれた学校づくり推進事業

③健康の保持増進と学校給食の充実

- ・学校給食の実施

④教育環境の充実

- ・学校施設整備事業

イ. 青少年の健全育成を推進します

①学校・家庭・地域の連携による健全育成環境の整備

- ・放課後子ども教室推進事業

②健全育成活動の充実

- ・児童館活動

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		学校教育課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子どもをはぐくむまちづくり		
		1. 学校教育を充実します		(1) 教育内容の充実		
事業名		教育内容の充実のための事業				
事業の概要等	事業の目的	中央教育審議会答申の考え方を生かし、「質の高い教師による、質の高い教育」を保証し、『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』のバランスがとれた児童生徒の育成を目指す。				
	事業の内容・現状	<ul style="list-style-type: none"> ・「田辺市学校教育指導の方針」として「6つの方針と50の留意点」を校長・教頭会、学校訪問等あらゆる機会を捉えて教職員へ周知を図る。(①学校運営体制を確立する。②確かな学力を育てる。③豊かな心を育てる。④健やかな体とたくましい体力を育てる。⑤生徒指導を充実して子どもたちが楽しく学べる学校をつくる。⑥学社融合を推進する。) ・各校では、これまでの全国学力学習状況調査や体力テストの結果分析の活用、言語力の育成、理数教育の充実、国際理解教育の推進、人を大切にする教育の充実、不登校問題への対応、学校評価研究、特別支援教育の推進等、教育内容充実のための様々な取組を実施している。 ・学校教育推進の2本柱として「基礎基本の徹底」と「学社融合の推進」を掲げ、教育実践の焦点化を図っている。 ・教育活動の深化、充実を図るため「市指定教育研究事業」として、市内の小中学校の中から2校を研究指定している。(田辺東部小学校・衣笠中学校) 				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、学習指導要領等				
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	604	618	報償費	287	国支出金
	決算額(千円)	585	587	委託料	300	県支出金
	事業の数値実績	H24年度	H25年度			地方債
	市指定研究校数	2校	2校			その他
	上記以外のH25年度の実績					一般財源
			計	587	計	587
目標と達成状況	事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校28校・中学校15校・幼稚園4園の学校・園訪問を実施して教育課程の実施状況等について協議する。 ・定例校長園長会、教頭会・各主任会で学校経営や教育課題等についての研修を行う。 ・「市指定教育研究事業」を通して実践的な教育研究に取り組み、その成果を市内の各校に普及させる。 				
	H24年度の課題に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の内容については、学校訪問や校長会・教頭会・教務主任会等、様々な機会をとおして周知を図った。 				
	目標に対する成果と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・定例学校訪問については、5月～11月の期間で実施した。 ・定例校長園長会、教頭会では、毎回、研修テーマを設定し、教育委員会からの説明、提案、協議等を行った。 ・市指定教育研究事業では、田辺東部小学校、衣笠中学校を指定し、研究テーマを定め取組をスタートさせた。 		自己評価 (B) A : 目標を超えて達成した B : 概ね目標は達成した C : 目標を下回った D : 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況		課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<ul style="list-style-type: none"> ・定例学校訪問、校園長会・教頭会については、計画的に実施し、より有効性、効率性を高めるように実施していく。 ・研修会等、様々な機会を通して教育課程の内容を踏まえた取り組みの充実に努める。 	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)		定例校長園長会、教頭会等で学校経営や課題への取組について研修し、学校訪問を通して教育の充実のため各種の指導を行っているが、今後も、いじめ問題への取組を含め、それぞれの学校の指導力アップのための取組を強化する必要がある。			評価 【 B 】 前年度評価 (B)	

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		スポーツ振興課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子供をはぐくむまちづくり		
		1. 学校教育を充実します		(1) 教育内容の充実		
事業名		JFAこころのプロジェクト・夢の教室				
事業概要	事業の目的	現役または元トップアスリートの実体験に基づく特別授業「夢の教室」を通して、仲間と協力することや夢を持つことの大切さを学び、夢や目標に向けて努力しようとする意識や態度を育みます。				
	事業の内容・現状	小学5年生を対象に、現役または元トップアスリートを「夢先生」として小学校へ派遣し、授業等を行う。 ①「ゲームの時間」…ゲームを通じて、仲間と協力すること、相手を思いやる心やルールを守ることの大切さを学ぶ。 ②「トークの時間」…夢先生が自身の競技生活での経験を話し、夢に向かって努力することの大切さを伝える。 ③「夢ファイル」…夢先生の話聞いた後、専用の用紙に自分の夢を書き、それに夢先生が一人ひとりにメッセージを記入して記念写真と一緒に返送する。				
	運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input checked="" type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	—	983	夢の教室事業委託料	924	国支出金
	決算額(千円)	—	924			県支出金
	事業の数値実績	H24年度	H25年度			地方債
						その他
						一般財源
			計	924	計	924
上記以外のH25年度の実績						
目標と達成状況	事業の目標	平成25年度から平成28年度までの4年間で、市内全ての小学校5年生(少人数の場合は4、6年生も対象)に、授業の2時限を使って実施(平成25年度は市内14校で実施)				
	H24年度の課題に対する取組状況					
	目標に対する成果と達成状況	・市内14校 計177名で実施。 【10月28日 三栖小】 講師：古木克明氏(元プロ野球選手)、式田高義氏(元プロサッカー選手) 三栖小42名、長野小2名、伏見野小2名 計47名 【10月29日 本宮小】 講師：古木克明氏(元プロ野球選手)、式田高義氏(元プロサッカー選手) 本宮小22名、三里小10名 計32名 【11月11日 鮎川小・富里小】 講師：廣田遥氏(アテネ五輪トランポリン7位)、式田高義氏(元プロサッカー選手) 鮎川小33名、富里小11名、三川小4名 計48名 【11月12日 中山路小・中辺路小】 講師：中西悠子氏(アテネ五輪水泳200mバックストローク銅メダル)、式田高義氏(元プロサッカー選手) 中山路小2名、上山路小12名、龍神小7名、咲楽小11名、中辺路小14名、近野小4名 計50名 ・アンケートの結果から、自分の夢を叶えるために目標をもって努力しようとする子供が、授業前は約50%だったのに対し、授業後は約95%まで増加した。			自己評価 (B) A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った	
事業の課題	区分	状況		課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	中・長期的な課題として、市内全ての小学校で実施した後、事業を継続していくのかどうかについて検討する必要がある。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)		子供たちに夢や目標に向かって努力することの大切さを伝えることは重要であり、今後、講師について、より幅広い分野からの選定に努める必要がある。			評価 【 B 】	
					前年度評価 (-)	

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		学校教育課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子どもをはぐくむまちづくり		
		1. 学校教育を充実します		(2) 開かれた学校づくり		
事業名		開かれた学校づくり推進事業				
事業の概要	事業の目的	参観日や学校開放月間に、子どもの学習活動の様子を保護者や地域住民に公開するなどして、地域の学校に対する関心を高め、支援や協力が得られるようにする。また、学校評議員会の開催や学校評価の実施を通して、自校の教育活動に生かすようにする。				
	事業の内容・現状	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日や学校開放月間を通して、積極的に学習活動の様子を保護者や地域住民に公開する。 ・生涯学習フェスティバル開催時に、各学校の「学社融合の取組」をパネル展示して、市民に広報する。 ・学社融合のさらなる推進と開かれた学校づくりを目指して、上山路小学校・龍神地区公民館に市の研究指定を行う。また、地域共育コミュニティ事業（本宮小・三里小・本宮中・本宮公民館）（中辺路小・中辺路公民館）（新庄中・新庄公民館）（田三小・西部公民館）に取り組む。 ・各学校で学校評価を実施し、結果を保護者や地域に説明するとともに、次年度の教育活動に生かす。 ・年間3回以上、各学校において学校評議員に意見を聞き、学校評価結果とあわせて、学校経営に生かす。 				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	教育基本法、学校教育法施行規則				
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	1,902	1,826	報償費(学校評議員謝金)	1,457	国支出金
	決算額(千円)	1,816	1,758	報償費(学社融合講師謝礼)	151	県支出金
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	委託料(学社融合委託料)	150	地方債
	学校評議員数	161人	156人			その他
	学社融合指定研究校数	1校	1校			一般財源
			計	1,758	計	1,758
	上記以外のH25年度の実績					
目標と達成状況	事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各園・学校において参観日、学校開放月間の取組を行う。 ・市の生涯学習フェスティバルで、「学社融合活動」のパネル展示を行う。 ・学社融合の市指定研究（上山路小・龍神地区公民館）、地域共育コミュニティ事業（本宮小・三里小・本宮中・本宮公民館）（中辺路小・中辺路公民館）（新庄中・新庄公民館）（田三小・西部公民館）を実施する。 ・園・学校評価結果を学校経営に反映させる。 ・学校評議員会を開催し、学校の特色づくりに向けて、地域の協力を得る。 				
	H24年度の課題に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会の活性化を図るため、各園・各学校では、説明や協議だけでなく、授業等を参観していただきながら様々なご意見をいただいた。 ・園・学校評価の評価項目の確認や文章表現の見直しを図った。 				
	目標に対する成果と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日や学校開放月間時に地域の人材等を生かした学習活動を公開した。 ・市の生涯学習フェスティバル開催時に「学社融合の活動」のパネル展示で学校、園の取組を報告した。 ・学校評価や学校評議員会を通して保護者、地域の意向を把握し、学校経営に生かした。 		自己評価 (B) A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況		課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観日や学校開放月間を通しての授業公開や生涯学習フェスティバルでの展示発表については、地域の人材等を活用しながら更に内容の充実を図る。 ・学校評議員会の開催についても、様々な分野からご意見をいただけるよう、会の持ち方をさらに工夫していく。 	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)		学校では積極的に地域に学校を開放し、地域の人々の協力をいただき、学習活動の中にも参加していただいている。学校も落ち着き、不登校も減少してきた。今後も学社融合の取組を継続・発展させていく必要がある。			評価【 A 】 前年度評価 (B)	

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		給食管理室			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子どもをはぐくむまちづくり			
		1. 学校教育を充実します		(3) 健康と学校給食の充実			
事業名		学校給食の実施					
事業概要	事業の目的	児童及び生徒の心身の健全な発達を目指して学校給食の充実を図る。					
	事業の内容・現状	・小中学校及び幼稚園において、衛生的で安全な学校給食を実施し、学校給食を通して子どもの健全な心身の発達を図る。 ◎小学校 ・単独校調理場7小学校 児童数266名(6.6%) ・共同調理場21小学校 児童数3,786名(93.4%) (うち城山台学校給食センター12校 児童数2,989名(73.8%)) ◎中学校 ・単独校調理場2中学校 生徒数166名(7.8%) ・共同調理場13中学校 生徒数1,955名(92.2%) (うち城山台学校給食センター6校 生徒数1,414名(66.7%)) ◎幼稚園 ・共同調理場(城山台学校給食センター)4幼稚園 園児数131名(100%)					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	学校給食法					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	510,472	511,791	賃金	81,706	国支出金	
	決算額(千円)	497,290	486,508	需用費	283,160	県支出金	
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	委託料	111,949	地方債	
	給食実施率	100%	100%	その他	9,693	その他	241,390
	児童生徒給食費収納率	99.14%	99.13%			一般財源	245,118
				計	486,508	計	486,508
	上記以外のH25年度の実績						
	目標と達成状況	事業の目標	①市内全幼小中での学校給食の実施 ②文部科学省「学校給食衛生管理基準」を踏まえ、学校給食関係者の衛生管理意識の向上を図るとともに、給食施設・設備の改善に努める。③地域の生産者との連携を図り可能な限り地元食材を使用し、地産地消に努める。				
H24年度の課題に対する取組状況		栄養士等と連携し、衛生管理基準の周知徹底を図るため研修会を実施した。上山路小・龍神小給食室の床修繕や三栖・大塔の冷凍冷蔵庫の更新、上山路小に移動シンクの設置など、衛生環境の向上、施設設備の改善を図った。地産地消では、引き続き生産者と連携し地場産物の利用推進を図るなど、各地で推進に取り組んだ。食の安全については、保護者の意見を踏まえ魚の放射能検査を二箇所で行った。納付率向上については、城山台において、引き続きセンター・学校間の情報共有を図り、日頃から未納を放置しない取組を進めるとともに、12月に一斉催告書を送付し、納付の働きかけを行った。また、納付の働きかけを行う際には、児童手当からの差引徴収に係る同意書提出の働きかけも併せて実施し、児童手当から4,341,057円(現年:1,812,908円、過年:2,528,149円)の差引徴収を行った。また9月議会において、悪質滞納者1名に対し未納給食費の支払いを求める訴えの提起についての議決を得、民事調停の申立を行い、12月に調停が成立し、一括納入により未納が解消した。					
目標に対する成果と達成状況	調理従事者に対し研修等を通じて衛生管理基準の周知を図り理解の促進を図った。施設設備の改善については、老朽施設設備が多く、衛生管理基準に適合させるには困難な点が多いが、県教育委員会と連携し、可能な範囲で取り組んだ。地産地消については、生産者と連携し、安定的な利用が図れた。給食費納付率については、城山台と学校が連携した取組を進めるとともに、児童手当からの差引徴収を実施し、前年度と同水準を維持した。			自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	学校給食については食育の観点からも事業の必要性は減少することはない。地産地消は子どもが地場産の食材を通じて地域の自然や文化、産業等に関する理解を深め、その生産等に携わる者への感謝の念を育む点で重要な役割を果たしており、給食を「生きた教材」として有効に活用するためには、生産者・関係部局とのいっそうの連携が必要。食材規格、確認方法等については、食を取り巻く様々な情報等に基づき、常に検討改善を行うことが必要。学校給食調理場の運営方法、再編等については学校統廃合等の検討と連携した検討が必要。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	収納対策において、児童手当からの差引徴収に努力するなど目標達成のためによく取り組んでいる。今後、地産地消の拡充を含め、学校給食の充実を図るための取組を継続・発展させる必要がある。				評価【A】 前年度評価(A)		

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		教育総務課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子どもをはぐくむまちづくり			
		1. 学校教育を充実します		(4) 教育環境の充実			
事業名		学校施設整備事業					
事業の概要	事業の目的	学校施設は、児童生徒の学習・生活の場として、豊かな人間関係を育むための教育環境として重要な意義を持つとともに、災害時には地域住民の避難場所としての役割をも果たすことから、その整備充実並びに安全確保を目的として本事業を実施するものである。					
	事業の内容・現状	①老朽校舎等の建築事業 田辺第二小学校及び会津小学校の校舎建築を進めるとともに、新庄小学校校舎の設計業務に着手する。 ②学校耐震化事業 耐震二次診断の結果（耐震化が必要な学校：小学校14校、中学校4校）を踏まえて、学校施設の早期耐震化を図る。 ③その他施設整備事業 小学校28校、中学校15校の学校施設について、緊急性及教育環境の改善の観点から各種改修・修繕等を実施する。					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	地震防災対策特別措置法、義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	1,077,909	1,751,271	賃金・旅費・需用費	306,374	国支出金	743,716
	決算額(千円)	1,068,238	1,737,717	役務費・委託料	77,444	県支出金	5,381
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	使用借料	25,257	地方債	559,200
	老朽校舎等の建替	—	1校	工事請負費・原材	1,296,892	その他	2,283
	耐震化率	82.0%	88.0%	備品購入費・負担金	31,750	一般財源	427,137
耐震補強設計	2校	2校	計	1,737,717	計	1,737,717	
上記以外のH25年度の実績	・芳養小学校グラウンド法面改修工事						
目標と達成状況	事業の目標	①老朽校舎等の建築事業 田辺第二小学校校舎の年度内完成を目指すとともに、会津小学校校舎建築工事及び新庄小学校校舎設計業務に着手する。 ②学校耐震化事業 平成20年度に完了した耐震二次診断の結果を踏まえ、耐震性の低い校舎、体育館から耐震補強設計等、耐震化に向けた取組を計画的に実施する。 ③その他施設整備事業 学校施設の各種改修・修繕等について、効率的、効果的に実施する。					
	H24年度の課題に対する取組状況	課題であった新庄小学校校舎の建替えに着手することができた。また、学校耐震化については、耐震性が低いIs値（構造耐震指標）0.3未満の学校施設から計画的に実施している。					
	目標に対する成果と達成状況	①老朽校舎等の建築事業 田辺第二小学校校舎建築工事（完了）、会津小学校校舎建築工事（着手）、新庄小学校校舎建築設計等（着手） ②学校耐震化事業 （小学校）田東小体育館、中辺路小校舎耐震改修工事、田東小校舎耐震設計 （中学校）高雄中管理棟耐震改修工事、高雄中南棟耐震設計 ③その他施設整備事業 通常の施設修繕等に加えて、芳養小学校グラウンド法面の改修工事、危険遊具の修繕等施設環境の充実を努めた。			自己評価（B） A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	学校施設は、子供たちの教育環境としての機能に加え、地域コミュニティの拠点や災害時の避難場所など、地域の社会資本としての役割を担っている。そのため、安全性の確保はもとより、教育環境の整備充実は今後においても大きな課題である。老朽校舎の改築（新築）や既存校舎等の耐震補強等については、これまでも計画的に事業を推進しているが、今後、木造校舎等未着手の学校施設の耐震化についても緊急性・必要性を十分見極めながらより効率的、効果的な改修に努めなければならない。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価（教育長・次長）	教育環境の整備充実については、計画的に取り組んでいるが、木造校舎、吊り天井等未着手の課題についても計画的な取組が必要である。					評価【B】 前年度評価（B）	

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子供をはぐくむまちづくり			
		2. 青少年の健全育成を推進します		(1) 学校・家庭・地域の連携による健全育成環境の整備			
事業名		放課後子ども教室推進事業					
事業の概要	事業の目的	すべての子どもを対象として、放課後や週末に小学校の余裕教室等を活用し、安全・安心な活動拠点（居場所）を設けるとともに、地域の方々の参画を得て、子どもたちに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供することにより、地域社会のなかで心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。					
	事業の内容・現状	各地域では学校、公民館、地域の各種団体等を巻き込んだ実行委員会を組織し、年間事業計画の検討や運営を自主的に行っている。平成25年度は、下記の4地域で実施。 ・稲成⇒稲成小学校ほか ・上秋津⇒上秋津小学校ほか（平成26年度からは単独の予算で実施するため当該実績からは外れる） ・龍神⇒龍神市民センター ・鮎川⇒大塔総合文化会館、鮎川小学校ほか					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	放課後子ども教室推進事業等実施要綱（文部科学省）					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	1,350	1,330	報償費	640	国支出金	360
	決算額(千円)	1,216	1,084	旅費	6	県支出金	360
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	需用費	388	地方債	
	実施箇所	4箇所	4箇所	役務費	50	その他	
						一般財源	364
			計	1,084	計	1,084	
上記以外のH25年度の実績							
目標と達成状況	事業の目標	市内4箇所で、学校、公民館、地域の各種団体を巻き込んだ実行委員会を組織し、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設ける。					
	H24年度の課題に対する取組状況	指導員の確保が依然として難しい地域もあるが、市内4箇所で学校・地域・公民館などが連携しながら確保活動を行った。新しい場所（教室）を取り入れた地域もあり、新たな指導者や協力者を募りながら既存の場所（教室）も含め、各地域において特色ある活動を行った。					
	目標に対する成果と達成状況	放課後子ども教室を目標どおり4箇所で開催した。 ・稲成 19教室 ・上秋津 26教室 ・龍神 22教室 ・鮎川 23教室 (延べ参加人数 H24 2,006人 H25 2,210人) 参加児童が多い時にはボランティアの協力をいただき、児童の安心・安全を見守ることができた。		自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況		課題の総括			
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	放課後や休日の居場所づくりということで、各地域で定着してきているが、地域によっては、指導者の確保が困難になっている教室もある。今後、指導者の確保が問題になってくると思われるため、地域と学校、公民館がより連携をする必要があるが、人的、金銭的な課題もある。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり				
総合評価（教育長・次長）	市内4箇所で、学校、公民館、地域の連携による実行委員会を組織して取り組み、それぞれ特色ある取組ができた。今後も地域の指導者の掘り起こしに努め、より多くの学校で実施できる体制づくりを進める必要がある。				評価【B】		
					前年度評価(-)		

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		児童館		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子どもをはぐくむまちづくり		
		2. 青少年の健全育成を推進します		(2) 健全育成活動の充実		
事業名		児童館活動				
事業の概要	事業の目的	学校・家庭・地域社会と連携を図り、地域における子どもの安全確保と健全育成の場として子どもの居場所づくりに努める。各種活動や遊びを通して、健康を増進し子どもの情操を豊かにすることを目的とする。				
	事業の内容・現状	1. 子どもを育成する活動 2. 子育て家庭を支援する活動 3. 地域活動を推進する活動 4. 人権教育総合推進事業 上記の4点を重点目標に掲げ、子どもを対象とした文化・スポーツ活動・学習活動等の講座や教室を開催するとともに、子どもが安心して遊べる場、「居場所」の提供を行っている。 また、保護者を対象に子育て講演会等の開催や教育相談日の開設、特に乳幼児の保護者に対しては子どもや保護者の交流の場「フリースペースちびっこ」を開設しており、子育て支援のための事業を実施するとともに、学校や隣保館、地域の各種団体と連携し、地域で子どもを守り育てる活動・ネットワークづくりを児童館が中心的な役割を持ちながら積極的に進めている。さらに、県教育委員会の人権教育総合推進事業の補助を受け、地域の子どもの基礎学力向上、基本的生活習慣の確立のため活動にも取り組んでいる。				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	児童福祉法				
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	4,682	4,180	旅費	24	国支出金
	決算額(千円)	4,051	3,846	報償費	2,380	県支出金 900
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	需用費	982	地方債
	開館日数	294	293	使用料	460	その他
	児童館利用人数	35,364	35,014			一般財源 2,946
			計	3,846	計 3,846	
上記以外のH25年度の実績						
目標と達成状況	事業の目標	子供が自主的・主体的に活動ができるよう環境を整え、豊かな遊びや体験活動を通して、子供どうしの交流を深め、心身ともに健やかな子供を育てる。また、学校や地域の各種団体と連携し、地域ぐるみで子育て、子育てを支援する取組を進める。				
	H24年度の課題に対する取組状況	毎月の児童館だよりの発行や田辺市のホームページへの掲載など校区全体に情報を発信しており、多くの子どもが児童館活動に参加している。また、乳幼児と保護者を対象に「フリースペースちびっこ」(就学前の乳幼児や保護者の交流の場)を開設しており、市の広報や情報誌等を通じて利用を呼びかけている。さらに、地域にある市の施設と連携しながら、町内会や関係団体と共にフェスティバルや児童館祭り、敬老行事等の子育て、子育ての支援活動に取り組んでいる。				
	目標に対する成果と達成状況	放課後や休日に定例活動や行事等を実施することができ、多くの子どもが児童館活動に参加しています。また、子どもが安心して遊べる場「居場所」として、親の意識に定着しつつあります。乳幼児と保護者を対象にした「フリースペースちびっこ」は、保護者同士の交流や憩いの場となっています。		自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況		課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	子どもを取巻く社会状況は著しく変化し、少子化の問題、児童虐待の問題、いじめや登校拒否の問題など様々な問題が山積しています。子育ては子どもを持つ親だけではどうにもならないといった状況もあり、地域ぐるみで、子育て・子育てを支援する取組(学社融合)が、今後益々重要になってきます。児童館のもつ健全育成機能を十分に生かした取組を進めることが大切であり、地域の拠点として児童館が中心的な役割を果たす中で、関係機関と連携しながら今後より進めていくことが大切であります。また、これまでの取組により地区の子どもの学力課題については一定の成果を上げてきましたが、乳幼児時期の生活習慣の未確立からくる弱さをもった子どもも多く、学力が中・低位に集中しており、校区全体を視野に入れながら今後も児童館活動の中で取り組む必要があると考えます。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
総合評価(教育長・次長)	子どもを取り巻く社会情勢が厳しくなる中で、児童館の健全育成機能がますます重要となってくる。今後も子どもの健全育成の場として、校区全体での催しなど、より積極的に取り組む必要がある。					

(3) 文化のかおるまちづくり

◎基本方針

郷土にゆかりのある偉人を広く社会に顕彰し、その功績を後世に伝えるとともに、先人の功績や郷土の歴史・伝統を学ぶ機会や資料の提供に努めます。

また、美術館や紀南文化会館などの活動・運営を充実させるとともに、市民の文化活動を支援することにより、個性と魅力のあるふるさと文化の振興を図ります。さらに、世界遺産である熊野参詣道、本宮大社に代表される文化遺産並びに文化景観の保全をはじめ、多くの文化財の保護・継承に取り組みます。

ア. 郷土の歴史を学び、後世へ伝承します

①郷土が生んだ偉人の顕彰

- ・南方熊楠翁を学ぶ機会の充実

イ. ふるさと文化の振興を図ります

①芸術文化の振興・発展

- ・田辺市美術展覧会（市展）の開催及び文化事業の実施
- ・美術館運営事業

ウ. 文化財を保護します

①世界遺産の保全・継承

- ・世界遺産保全事

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		南方熊楠顕彰館			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第3節 文化のかおるまちづくり			
		1. 郷土の歴史を学び、後世へ伝承します		(1) 郷土が生んだ偉人の顕彰			
事業名		南方熊楠翁を学ぶ機会の充実					
事業概要等	事業の目的	熊楠翁の偉業を広く社会に顕彰し、更に後世に伝えていくために、南方熊楠顕彰館を拠点とし、田辺市民はもとより、県内外、世界の人々が熊楠翁の業績や実像に理解を深めることができるよう顕彰事業に官民協働で取り組み、地域発展に寄与する。					
	事業の内容・現状	(1) 南方熊楠顕彰館の運営及び南方熊楠邸及び所蔵資料の公開 邸宅及び貴重な研究資料等を保存・管理し、学術振興と教育的配慮の下、公開を行う。 (2) 顕彰事業の推進 関係機関と連携し、展示会、講演会等の事業を推進し、南方熊楠や田辺・熊野についての学習機会の提供と情報発信を展開し、市民及び全国に向けた顕彰事業を積極的に推進する。 (3) 所蔵資料の保存管理・調査研究 邸宅及び研究資料等を保存し、外部研究機関等と連携を図るとともに、資料の調査・整理を行い、南方熊楠に関する研究を推進し、その成果を広く情報発信する。					
	運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input checked="" type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	南方熊楠顕彰館条例、同施行規則					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	7,020	7,100	翁顕彰事業委託料	7,100	国支出金	
	決算額(千円)	7,020	7,100			県支出金	
	事業の数値実績	H24年度	H25年度			地方債	
	来館者数	7,734	6,211			その他	
	授業・研修受入	1,162(37件)	694(19件)			一般財源	7,100
	催事参加者	962	1,440	計	7,100	計	7,100
	展示観覧者	5,629	4,712	委託先事業費補填	1,771	委託先自主財源 (南方熊楠顕彰館)	1,771
	上記以外のH25年度の実績	田辺観光協会の観光庁支援事業に協力することで助成を得ることができ、隔年で記念館と開催する「南方熊楠ゼミナール」(200人)を京都で、公開シンポジウム(300人)を東京で開催し、南方熊楠と田辺市をPRした。また、後日姉妹都市提携を結ぶことになった堺市で、堺エコロジー大学、関西大学と共催でシンポジウム(100人)を開催した。					
目標と達成状況	事業の目標	①学習機会と場の提供(月例展・特別企画展、講演会、イベント等の実施) ②南方邸及び所蔵資料の保存、修繕 ③所蔵資料の活用、調査研究(外部研究機関との共同調査含む) ④出版活動(自筆資料の翻刻出版<資料叢書刊行>、読み物としての機関誌発行等) ⑤各種メディア、ウェブを通じての情報発信等					
	H24年度の課題に対する取組状況	若手研究者を対象とした南方熊楠研究奨励事業は、応募の減少等により今回の第5回をもって終了となったが、熊楠研究者の減少、高齢化に伴う若手の補充のため「南方熊楠研究会」の立ち上げ準備をした。					
目標に対する成果と達成状況	①来館者6211人(80.3%)、団体見学25件(80.6%)、授業・研修受入19件(51.4%)、視察27件(65.9%)、催事参加者1440人(149.7%※H25は共催事業含む)、展示観覧者4712人(83.7%) ②6点 ③資料閲覧60件(133.3%) ④機関誌「熊楠ワークス」の発行、その他書籍発行に協力多数 ⑤取材41件(107.9%)、出版・報道・放送167件(92.3%)、ホームページ45,935アクセス(73.8%)、ブログ11,730アクセス(74.3%) ()は前年度比			自己評価 (C) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	熊楠研究者の減少、高齢化に伴い、若手の補充が課題となる一方、地元でも熊楠を支える人材育成をしていく必要がある。そのため、平成26年度は第一回南方熊楠研究会を開催し、熊楠研究者の確保、若手研究者の育成を図る。また、世界遺産登録10周年を迎える今年度は、熊野古道を中心とした熊楠ゆかりの地に焦点を当て、関係機関と連携をとりながらPRするとともに、「学びあい講座」に登録し、地域住民が学ぶ機会の充実を図り、来館者の増加を目指す。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり				
総合評価(教育長・次長)	来館者が減少しているため、学校等とも連携し、広く市民が来館しやすいう取組を行う必要がある。世界遺産登録10周年を迎え、熊野古道と熊楠翁に焦点をあてて地域住民にも学んでもらう機会を増やすとともに、熊楠研究の若手育成にも取り組む必要がある。				評価 【 B 】 前年度評価 (B)		

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		文化振興課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第3節 文化のかおるまちづくり			
		1. ふるさと文化の振興を図ります		(1) 芸術文化の振興・発展			
事業名		田辺市美術展覧会(市展)の開催及び文化事業の実施					
事業の概要	事業の目的	田辺市を中心とする紀南地域の芸術文化の振興を図るため、鑑賞力と愛着心を培い、創作意欲を盛んにして芸術水準の向上に努めるとともに、優れた芸術を鑑賞する機会、文化芸術団体の公演・発表の場を提供する。					
	事業の内容・現状	<p>○第60回記念田辺市美術展覧会及び市展龍神展 第1期：10月4日～6日 洋画・写真・陶芸・日本画・工芸 第2期：10月11日～13日 書・彫塑・生花 龍神展：10月19日～21日 生花を除く全部門(※第60回記念として初めて移動展を開催)</p> <p>○文化事業の実施(会場 紀南文化会館他) 【主催事業】①7/12「山下泰資・木野雅之・清水和音ゴールデン・トリオ・コンサート」 ②8/10「京フィルと遊ぼう はじめてのクラシックコンサート」 ③9/10「邦楽ユニット WASABI(ワサビ)コンサート」 ④10/14「フォルクハント・シュトイデ ヴァイオリンリサイタル」 ⑤11/10「アフリカ音楽魂の鼓動ROHOシアター公演」 ⑥1/25「オーケストラで聴くジブリ音楽」 ⑦3/9「大阪交響楽団名曲セレクション2014」 ⑧3/16「常田富士男の民話劇場」 【共催事業】8/20「名作シアター」(和歌山県文化振興財団) 9/8「第29回紀南合唱祭」 9/15「第41回吹奏楽祭」 12/8「第28回田辺第九演奏会」</p>					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等						
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	18,216	29,495	報償費・旅費	1,922	国支出金	
	決算額(千円)	17,370	27,551	需用費・役務費	4,009	県支出金	
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	委託料	16,649	地方債	
	市展出品数	201	200	使用料等・備品	4,071	その他	19,014
	市展入場者数	4,647	4,354	負担金補助及び負担金	900	一般財源	8,537
	第60回記念龍神展		346	計	27,551	計	27,551
	上記以外のH25年度の実績	○文化事業チケット販売枚数(入場者数)合計3,380名 *H24実績3,479人 H23実績4,066人 ①594名、②241名、③642名、④164名、⑤273名、⑥785名、⑦403名、⑧278名					
	事業の目標	広報紙・広告・HP・ポスター・チラシ等PRに注力し、来場者の増加に向け取組む。					
H24年度の課題に対する取組状況	文化事業については、初めて文化庁の高額な「シニア」事業の補助(972万円)を受けたこともあり、H24年度の6事業に比べ2事業多い8事業を実施し、来場しやすい手頃な価格で提供した。また、若年層への文化、芸術の普及のため、小中高校生を対象とした団体鑑賞(邦楽ユニット)と併せてアトリチ(館外で行う芸術普及)を実施し、8学校782人の参加があった。市展では、第60回記念として、本展に加え初めて移動展「龍神展」を開催した。						
目標に対する成果と達成状況	文化事業の数は増やすことができたが、入場者数は昨年と比べて減少している。特に毎年公演している大阪交響楽団は330人の減となった。 市展では、初めて入場者にアンケートを実施し、本展では283人、移動展では40人から回答があった。市展に毎年来られる方は60%で、自由意見では出品数が増えればもっとよくなる、移動展は是非やったほうがよい、やったほうがよいと合わせて89%あった。龍神展では、地域の小中学校へ呼びかけ203名が参加し、審査員が説明を行った。		自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った				
事業の課題	区分	課題の総括					
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	文化事業では、芸術性の高い作品を手頃な料金で提供できるよう、助成事業の活用などに努める。 引き続き、小中高校生を対象とした団体鑑賞やアトリチなど、芸術への興味を持ってもらえる、レベルの高い鑑賞ができる機会の提供に努める。 移動展は、普段見にくる機会の少ない地域での鑑賞機会の提供とともに、これを機に旧町村からの出品数の増加、来場者数の拡大を目的としており、次年度以降への効果を期待している。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり				
総合評価(教育長・次長)	市展では60回を記念して移動展を実施したのが大変好評であった。今後も、移動展等の実施により旧町村からの出品増加に取り組むとともに、多くの人に来場してもらえるような工夫が必要である。				評価 【B】 前年度評価 (B)		

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		美術館		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第3節 文化のかおるまちづくり		
		2. ふるさと文化の振興を図ります		(1) 芸術文化の振興・発展		
事業名		美術館運営事業				
事業の概要	事業の目的	田辺・紀南地方の文化の拠点となる施設として、特別展・館藏品展の開催や生涯学習時代に対応した各種活動を展開し、質の高い芸術文化に触れる機会を提供する。また、文化財（美術作品）及びそれに関する資料、史料の収集保存並びに、調査研究を行い、刊行物等を通じて広く紹介、美術作品を後世に継承し、それに親しむ場と学びの機会を提供する。				
	事業の内容・現状	展覧会については、4月から7月にかけて田辺市立美術館（本館）と熊野古道なかへち美術館（分館）の共催、同時開催で熊野古道なかへち美術館の開館15周年記念特別展を開催、その他本館では東京国立近代美術館工芸館の所藏品展などの特別展2本と小企画展1本、館藏品展1本の計4展覧会を計画、開催した。分館では本館との共催展の後、10月から12月まで「妹島和世+西沢立衛/SANAA展」と題した特別展1本と館藏品展2本の計3展覧会を開催した。作品収集活動については、収集方針に基づき美術作品（又は関連資料）の購入、又は寄贈及び寄託作品の積極的な受入れを図った。				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	博物館法				
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	27,198	27,062	報償費、旅費	1,178	国支出金
	決算額(千円)	19,629	20,014	需要費、役務費	2,166	県支出金
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	委託料	15,052	地方債
	年間入館者数(本館)	7,831	8,228	美術品購入費	1,500	その他
	年間入館者数(分館)	2,996	4,709	その他	118	一般財源
合計	10,827	12,937	計	20,014	計	20,014
上記以外のH25年度の実績	・年間受入作品数：購入1点、寄贈2点 ・美術館開放講座（分館）にて箏のコンサートを開催。					
目標と達成状況	事業の目標	・本館、分館それぞれ年間150日以上展覧会開催、教育普及事業としての講演会などの開催 ・図録等刊行物の発行 ・年間1点以上のコレクションの追加				
	H24年度の課題に対する取組状況	平成23年度から開始した若年層（18歳未満及び学生）の観覧料無料制度の効果を検証しながら、さらに魅力ある美術館運営を企画し来館者増を図った。また、NPO主催のイベントに協賛して観覧料無料措置などの取組を行うとともに、各特別展ではワークショップや記念講演会を開催するなど、積極的に各種活動を展開した。				
	目標に対する成果と達成状況	本年度は分館の開館15周年記念特別展として、春に両館合同の特別展、秋に分館のみで記念特別展を開催するとともに、両館の各特別展でミュージアムトークや記念講演会を開催、分館では開放講座として箏のコンサートを行うなど、積極的に各種活動を展開した。作品収集については、長谷川利行作品（油彩）1点を購入、野長瀬晩花作品（日本画）2点が寄贈された。		自己評価（B） A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況		課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	予算の範囲内で出来るだけ魅力のある展覧会活動を継続していく。また、記念講演会をはじめ各種講座、花まつりへの協賛等の積極的な実施を図る。収集活動については、出来る限り作品購入費を確保しながら、なおかつ作品の寄贈や寄託を積極的に募っていく。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
総合評価（教育長・次長）	来館者が増加しているが、今後も魅力ある展覧会を企画し、学校等とも連携して幅広い層の来館者増に努める必要がある。				評価【B】	
					前年度評価(B)	

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名	文化振興課				
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち	第3節 文化のかおるまちづくり				
		3. 文化財を保護します	(1) 世界遺産の保全・継承				
事業名		世界遺産保全事業					
事業概要等	事業の目的	平成16年7月、世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」のうち、熊野本宮大社をはじめとする本市が有する登録資産を、人類のかけがえのない財産として守り、引き継いでいくとともに、「田辺市歴史文化的景観保全条例」を設け、登録資産の周囲をバッファゾーン（緩衝地帯）として地域指定し、環境や文化的景観を維持することを目的とする。					
	事業の内容・現状	三県協議会策定の包括的な保存管理計画及び田辺市策定の保存管理計画に従い、本市が有する登録資産を人類のかけがえのない財産として保全する。 このため、非常に広大な古道区域を旧本宮町・旧中辺路町域に分割し、日常の管理を本宮・中辺路両森林組合それぞれに委託、定期的なパトロールは月に1度実施し、また、台風通過後などの災害確認については即日中に実施し被災状況等を把握するなど、日常的な維持管理を通して、世界遺産の適切な保全を行う。 重要文化財熊野本宮大社社殿の修理事業に対して、事業費補助などの支援を行う。					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input checked="" type="checkbox"/> 民間委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	文化財保護法、和歌山県景観条例、田辺市歴史文化的景観保全条例、田辺市指定文化財等補助金交付要綱ほか					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	15,177	6,497	報酬	78	国支出金	0
	決算額(千円)	14,507	5,694	需用費	899	県支出金	1,803
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	委託料	3,320	地方債	
	測量調査箇所	1箇所	0箇所	負担金補助及交付金	1,397	その他	
	修復・修繕箇所	5箇所	5箇所			一般財源	3,891
事業補助件数	1件	1件	計	5,694	計	5,694	
上記以外のH25年度の実績							
目標と達成状況	事業の目標	①景観審議会：申請案件審議、景観に対する意見具申 ②古道管理・パトロール：通常管理・パトロールを本宮・中辺路両森林組合に委託し実施 ③文化財保護対策：文化財の保存・整備、修復・修繕事業、啓発活動 ④その他：災害確認、軽微な修繕の実施、熊野三山史跡整備事業補助					
	H24年度の課題に対する取組状況	古道管理、修復・修繕事業とも関係団体との連携により概ね適切に実施されている。台風12号災害による復旧事業は大規模崩落した1箇所を残して終了し、当該箇所も26年度に治山事業が終了する見込みで、27年度に事業着手の予定である。世界遺産関連の未指定文化財については、27年度史跡指定に向けて取組を進めている。					
	目標に対する成果と達成状況	①景観審議会：2回開催、申請案件審議等 ②古道管理・パトロール：年12回以上実施、小規模修繕 ③文化財保護対策：古道等の修復・修繕（5箇所） ④その他：災害確認、軽微な修繕の実施、熊野三山史跡整備事業への事業補助			自己評価 (B) A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	世界遺産の保全については、効果的な古道管理・パトロールにより概ね適切に実施されている。今後、古道の過去の修繕履歴等をデータ化するなど、管理の効率化を進めていきたいと考えている。世界遺産関連文化財については、平成27年度中の指定に向けて作業に努めたい。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	世界遺産の保全については、関係機関との連携により概ね適切に管理されている。 関連文化財の追加指定の取組について、万全を期するとともに事業に遅れないよう努める必要がある。					評価【B】	
						前年度評価(B)	

(4) 学びを支えるまちづくり

◎基本方針

「いつでも、どこでも、だれでも学べる」ことを基本に、様々な学習ニーズに対応できる学習環境の整備や学習機会の拡充を図るとともに、学習成果が地域づくりやまちづくりに生かされるよう、生涯学習のまちづくりを進めます。

また、だれもが生涯を通じてスポーツを楽しみ、健康づくりに取り組めるよう、地域に根ざした市民スポーツの振興を図ります。

ア. 生涯学習の振興を図ります

①学習機会の充実

- ・公民館事業

②学社融合の推進

- ・学社融合研究事業

③学習環境の充実

- ・図書館管理運営事業
- ・田辺市まちづくり市民カレッジ

イ. 生涯スポーツの振興を図ります

①スポーツ・レクリエーション支援体制の充実

- ・紀の国わかやま国体に向けての開催準備業務

②スポーツ・レクリエーション機会の充実

- ・スポーツ・レクリエーション機会の充実

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり			
		1. 生涯学習の振興を図ります		(1) 学習機会の充実			
事業名		公民館事業					
事業概要	事業の目的	ぬくもりのある社会の実現と地域の活性化を目指し、関係教育機関・団体と連携を図りながら、住民の交流の促進、地域づくりに繋がる学習活動の推進、人権教育啓発及び学社融合の取組を行う。					
	事業の内容・現状	①地域住民の交流の促進を図るための各種事業の実施 各種文化・スポーツ事業、教室、サークル支援等 ②地域の課題解決と、魅力ある地域を作るための学習活動の実施 環境問題、防災、福祉等の、現在の課題や地域の課題に関する学習会 ③人が大切にされるまちづくりを推進するための人権教育啓発の取組 各公民館における地域人権学習会の開催及び指導者層を対象とした研修の実施 ④地域全体での子育てと地域の活性化を図る学社融合事業の取組 公民館、学校が連携した子どもの健全育成と地域コミュニティの形成を図るための取組					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	社会教育法					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	64,362	69,973	報酬・賃金	13,677	国支出金	
	決算額(千円)	57,325	64,252	報償費・旅費	5,506	県支出金	1,784
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	需用費・役務費	31,343	地方債	
	公民館事業延べ参加人数	178,723	168,948	委託料・使用料等	12,291	その他	
				備品・負担金補助	1,435	一般財源	62,468
			計	64,252	計	64,252	
	上記以外のH25年度の実績						
目標と達成状況	事業の目標	ぬくもりのある社会の実現と地域の活性化を目指し、関係教育機関・団体との連携を図りながら、住民の交流の促進、地域づくりに繋がる学習活動の推進、人権教育啓発及び学社融合の取組を行う。					
	H24年度の課題に対する取組状況	南海トラフの巨大地震を見据えたなか、防災をテーマとした学習会の開催に重点的に取り組むとともに、各種分野ごとの教養講座や学社融合をはじめとする地域づくり及び地域活性化に繋がる取組を展開し、住民同士の交流やつながりの構築、地域の課題解決に努めてきた。また、公民館職員の資質向上に向けては、積極的に様々な研修会に参加するとともに、毎月開催の公民館主事会での研修や館長主事会、社会教育委員との合同研修会などにより職員の力量の向上を図った。					
	目標に対する成果と達成状況	全20公民館で策定した「地域生涯学習計画」に基づき、地域に根ざした公民館活動を展開した。各公民館では、学社融合の取組や文化・スポーツ事業、各種教室等を実施し、住民の交流促進を図り、地域課題をテーマとした学習会の開催や人材の育成に努めながら学びを通じた地域づくりや地域活性化に繋がるよう取組を展開した。この他、生涯学習後期基本計画の重点アクションプランの取組みも実施したが、本格的な取組みはH26年度からとしており、期待するところである。		自己評価 (B) A : 目標を超えて達成した B : 概ね目標は達成した C : 目標を下回った D : 目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	公民館が地域づくりや地域活性化のための拠点となるようその役割を果たしていくことが求められる。そのため平成25年度からの後期地域生涯学習計画で地域課題と公民館の役割を的確に位置づけており、より効果的な事業展開を図ることが重要である。公民館での学びを通じて、防災をはじめとする地域課題の解決や住民同士の交流、また魅力ある地域づくりに繋げていけるよう、各種団体とも連携を深め、さらに充実した取組の展開や住民の主体的な活動を支える公民館職員の力量向上を図る取組を継続、充実させていくことが必要である。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	公民館活動を防災やまちづくりなど地域の活性化に繋げていくとともに、地域の方々の参画を促し、地域の課題についても解決できるよう取り組む必要がある。また、分館の体制についても検討の必要がある。				評価【 B 】		
					前年度評価 (B)		

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり			
		1. 生涯学習の振興を図ります		(2) 学社融合の推進			
事業名		学社融合研究事業					
事業概要	事業の目的	田辺市教育委員会では、教育方針の最重要項目として「学社融合の推進」を位置づけており、学校・家庭・地域の教育力向上を図りながら子どもの健全育成に取り組む体制づくりと地域の特色ある教育づくりに努めている。学社融合の全市的な向上を図るため、学校と公民館を同時に研究指定し、実践と研究に取り組んだ成果を市全域へ普及させる。					
	事業の内容・現状	全公民館、全幼稚園、全小中学校において、地域の特色を生かした学社融合の推進を展開している。平成18年～20年度の芳養小学校と芳養公民館をはじめ、平成21～23年度には県下初の一体型施設の田辺第一小学校と中部公民館、平成24年度からは上山路小学校と宮代分館、東西分館、殿原分館を順次研究指定し学社融合に取り組んでいる。また、平成23年度～25年度の3ヶ年間、文部科学省の補助事業を活用した共育コミュニティ本部事業を4地域（田辺第三小学校・西部公民館、新庄中学校・新庄公民館、中辺路小学校・中辺路公民館、本宮小中学校・三里小学校・本宮公民館）が取り組み、地域に根ざした事業を展開した。それぞれの取組については、最終年度に研究発表会を開催し、その成果を市内全域に普及させ、全地域において学社融合が図れるように継続した取組を進めている。					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	教育基本法、社会教育法、田辺市教育基本方針					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	2,364	2,676	報償費	613	国支出金	
	決算額(千円)	2,365	2,828	旅費	57	県支出金	1,784
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	需用費・役務費	1,873	地方債	
	学社融合フォーラム(兼)学社癒合研修会	650	700	使用料及び賃借料	133	その他	
				その他(対象外経費)	152	一般財源	1,044
			計	2,828	計	2,828	
上記以外のH25年度の実績	8月24日～25日第17回融合フォーラム in 和歌山2013(兼)田辺市学社融合研修会(園・校長、学社融合担当者、公民館長・主事、一般教員、PTA、地域コーディネーター)						
目標と達成状況	事業の目標	本格的な学社融合の取組を開始した芳養小学校・芳養公民館から田辺第一小学校・中部公民館、上山路小学校・宮代分館・東西分館・殿原分館と継続的に事業が展開されてきており、その成果を研究発表会で披露することにより、取組を市内全域に広げていく。また同時に、共育コミュニティ本部事業の取組をさらに拡大、深化させ、学校・家庭・地域の連携を一層強化し特色ある地域づくりに努める。					
	H24年度の課題に対する取組状況	芳養小学校・芳養公民館、田辺第一小学校・中部公民館については継続した取組がなされており、地域づくりの一翼を担っている。上山路小学校・宮代分館・東西分館・殿原分館についてはH26年度が最終年度となり、発表を見据えさらなる飛躍が期待される。また、共育コミュニティ事業では4地域での取組が終了し、継続した事業展開を図っており、H26からは新たに2地域（中芳養地域、大塔地域）での取組が実施される。学社融合の推進については市内全域への普及が期待されるところであり、そのための組織体制の整備も徐々に進んでいる。					
	目標に対する成果と達成状況	上山路小学校・宮代分館・東西分館・殿原分館の研究では、統合された小学校ということで、地元住民の愛着感や親近感の希薄化が心配されるなか研修会や地域交流を重ね、地域一体化に向けた取組が図られている。最終年度のH26は「龍人学」等をテーマに様々な事業展開や特色ある地域づくりが図られ充実した内容の発表が期待される。共育コミュニティ本部事業では、終了した4地域とも継続した学社融合の取組が確立されてきている。新たな2地域（中芳養、大塔）についても、地域資源を生かした特色ある地域づくりや子どもの健全育成に取り組む、広く他の地域へも普及させることが期待される。			自己評価 (A) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	4地域の共育コミュニティ本部事業が終了となったが、継続した取組がされており、それを続けていきたい。H24年度から研究指定されている上山路小学校・宮代分館・東西分館・殿原分館の取組が最終年度となるので充実した内容の発表を實踐し、市全域に普及させたい。また、共育コミュニティ事業の新たな2地域（中芳養、大塔）については、地域全体で、それぞれ地域の特色ある取組を實踐し、将来に繋げていくことが大切である。今後については、市全域において学社融合の組織を確立させ取組を展開することが求められる。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	学社融合事業の取組は全市すべての地域で展開され、充実してきている。補助事業終了後も学社融合に取り組める体制を継続するとともに、今後も全市的な取組を進めていく必要がある。						評価【A】 前年度評価(B)

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		図書館			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり			
		1. 生涯学習の振興を図ります		(3) 学習環境の充実			
事業名		図書館管理運営事業					
事業の概要	事業の目的	公共図書館は市民生活に欠かせない施設として、近年の社会環境の変化に即応した地域の情報および生涯学習支援の拠点、子どもの読書活動の推進を図る施設として、その役割を果たさなければならない。そのため、すべての市民が、身近に図書館を利用できるよう、効率的・効果的な図書館サービスネットワークの構築を図る必要がある。					
	事業の内容・現状	<p>【読書活動の推進】</p> 様々な読書推進活動（ブックスタート、ブックトーク、読み聞かせ、団体貸出など）を実施し、子どもたちが読書に親しめる環境づくりに取り組んでいる。配本については幼稚園、保育所（園）を対象とした「なかよし文庫」に加えて、学童保育所を対象とした巡回も行っている。 <p>【資料整備と蔵書の充実】</p> 幅広い市民の学習ニーズに応じた資料、地域の特性を生かした資料の整備と蔵書の充実を図っている。 <p>【情報通信を活用したサービスの充実】</p> 図書システムにより、本館及び4分室の蔵書管理の一元化を行ない、インターネット予約の推進を図る等、図書資料提供サービスの迅速な運営を進めている。 <p>【移動図書館等の充実】</p> 本館、分室への来館に不便な地域には、移動図書館を運行し、田辺市全域への読書活動の手助けを行っている。各行政局、教育事務所との連携による「ふれあい文庫」の巡回を行ない、地域の文化力向上に寄与している。					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	図書館法					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	42,878	39,564	報酬・報償費	414	国支出金	
	決算額(千円)	40,422	37,916	旅費・需用費	10,806	県支出金	
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	役務費・委託料	7,586	地方債	
	本館入館者数	229,486	224,203	使用料・備品購入費	19,008	その他	5,224
	図書受入冊数	14,508	11,713	負担金補助金ほか	102	一般財源	32,692
				計	37,916	計	37,916
	上記以外のH25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスレクチャー開設(4回) ・暮らしに役立つ講座の開設(4回) ・読み聞かせボランティア研修会(2回) ・絵本ライブ&てづくり絵本ワークショップ(1回) ・読書講演会(1回) 					
	事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の充実 ・読み聞かせボランティア育成研修会実施 					
	H24年度の課題に対する取組状況	・年度計画に基づく事業等の取組については概ね達成できたが、資料の充実や人材育成については、今後も継続的に取り組むべき課題である。					
目標に対する成果と達成状況	・昨年度に引き続き、読み聞かせボランティア研修会の実施により、技術及び活動意欲の向上に効果を上げている。			自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	新館での充実した図書館サービスを展開するためには、「施設」「資料」「職員」の3要素がバランスよく保たれていることが必要である。施設については、達成されたため、残りの要素としての「資料」「職員」について、日々効率的な選書および資質の向上が必要である。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり				
総合評価(教育長・次長)	新しい図書館をより多くの方に利用してもらうため、情報発信に工夫するとともに、今後も蔵書等の充実と職員の資質の向上に努める必要がある。				評価 【 B 】		
					前年度評価 (B)		

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり		
		1. 生涯学習の振興を図ります		(4) 学びを通じた地域づくりの推進		
事業名		田辺市まちづくり市民カレッジ				
事業概要	事業の目的	これからの地域を豊かにしていくために地元学講座を開設し、まちや地域を支える人づくりに努める。様々な分野の第一線で活躍する研究者や実践者を講師に招き、地域が抱える課題を解決する方法を学び、市民自らが行動する力を育む。				
	事業の内容・現状	テーマを「地域の未来を創造する市民力～学び、行動する市民へ～」とし、地域の第一線で活躍する研究者・実践者を講師として招聘。9月～月1回、全7回の連続講座を開催。受講者は一般公募及び公民館長推薦の方の他、企画運営委員や公民館主事等の60名余。毎回、講義の後に各班に分かれて「地域づくり」のためのグループ協議を行う。参加者は全7回の講座を通じて、地域を活性化するために必要な課題解決の手法等を学習すると共に、コンサルタントの手法を学び、最終回にグループ発表をする。 ■事業の数値実績 延べ参加者数（聴講者を含む。） 263名				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	「田辺市生涯学習推進計画」が掲げる重点アクションプラン				
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	729	972	報償費	350	国支出金
	決算額(千円)	1,050	756	旅費	285	県支出金
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	需用費	59	地方債
	講座数	年7回	年7回	役務費	62	その他
	述べ参加者	615人	263人			一般財源
			計	756	計	756
上記以外のH25年度の実績	企画運営は市民も参画した企画運営委員会を組織し、プログラムの立案や講座の運営に当たった。公民館主事においては、市民との共同学習・研修の一環と位置づけ、受講生と共に学び、毎回、グループ協議にも積極的に参加し、地域づくりについて意見を交換した。					
目標と達成状況	事業の目標	地域課題に向き合い、その現状を把握し、課題の解決方法を参加者と共に考え、自らも行動し、「地域の未来づくり」につながる人材を育成する。				
	H24年度の課題に対する取組状況	受講生と地域づくりの最前線の現場の一つである公民館との積極的な連携により、各公民館長推薦の16名の方の参加があった。				
	目標に対する成果と達成状況	受講生は、地域を活性化するための手法を「グループ発表」と共に、地域のために自身ができる第一歩「個人行動宣言(マイ・マニフェスト)」を作成するなど、7回の連続講座を通じて「地域の未来づくり」の行動を起こす意欲を持つようになり、自主的に地域活動に参加する修了生も出てきている。 又、昨今の人口減少による担い手不足に危機感を抱く方々からは、防災に対する学びへの意欲と同様に、地域活動を支える基盤として、経済・産業活動への学習意欲が高まった。		自己評価 (A) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括	
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	防災や安全・安心なまちづくりだけでなく、「田辺市生涯学習推進計画 後期基本計画」の重点アクションプラン「輝け! 地域の未来塾(地域版市民カレッジ)」 「地域力を高める公民館活性化モデル事業」などの実施につながる人材を育むプログラムの立案の必要がある。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	市民カレッジが発展し、龍神や西部カレッジが誕生するなど、受講生が地域で行動するようになってきている。今後も、地域づくりの担い手となる若者層のリーダー養成に取り組む必要がある。				評価【A】	
					前年度評価(B)	

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		国体推進室		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり		
		2. 生涯スポーツの振興を図ります		(1) スポーツレクリエーション支援体制の充実 (2) スポーツレクリエーション機会の充実		
事業名		紀の国わかやま国体に向けての開催準備業務				
事業概要等	事業の目的	平成27年秋に開催される「紀の国わかやま国体」の成功に向け準備を行う。				
	事業の内容・現状	<ul style="list-style-type: none"> ・田辺市実行委員会の開催（総会・常任委員会・専門委員会） ・先催地調査（長崎リハ大会、東京国体、東京事業説明会） ・中央競技団体の視察対応 ・国体のぼり、横断幕、啓発用配布物品の作成などPR事業 ・農林水産まつり、弁慶まつり、生涯学習フェスティバル等への参加 ・平成26年5月、6月のリハ大会に向けての準備 				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	スポーツ基本法（平成23年8月24日施行）第26条（国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会）				
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	2,020	26,209	需用費	3,500	国支出金
	決算額(千円)	1,410	23,096	委託料	2,706	県支出金
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	備品購入費	5,254	地方債
	会議の開催(実行委員会、庁内推進本部など)	1回	21回	負担金補助及び交付金	5,445	その他
	広報、新聞、ラジオ等		31回	賃金・旅費・その他	6,191	一般財源
イベントへの参加、講演会の開催		23回	計	23,096	計	23,096
上記以外のH25年度の実績	田辺市実行委員会ホームページの開設、啓発物品の作成(12種類)、横断幕の設置(2カ所)					
目標と達成状況	事業の目標	「紀の国わかやま国体」・「紀の国わかやま大会」の開催成功に向けての準備				
	H24年度の課題に対する取組状況	平成25年度から、順次、職員の増員を要望し、前年度には十分な職員体制が整うよう、調整に努めた。 また、平成26年に開催されるリハーサル大会に向け、各種計画・要項の策定、実施本部体制の構築、更には、国体・大会のPRなど、積極的かつ迅速に取り組んだ。				
	目標に対する成果と達成状況	事務局の体制が整備されつつあり、準備事務など基本的な部分は、概ね順調に進んでいる。			自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った	
事業の課題	区分	状況			課題の総括	
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	本大会の前年となる平成26年度には、リハーサル大会を開催するなど、細部にわたり綿密な準備作業を行う必要がある。また、国体を契機に田辺市を全国に発信するためには、全市が一丸となって取り組むことが必要であることから、より効果的な啓発活動を行い、気運の醸成を図る必要がある。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
総合評価(教育長・次長)	「紀の国わかやま国体」・「紀の国わかやま大会」の成功に向けて、リハーサル大会等も含め、全庁体制で万全の準備に取り組む必要がある。					
					前年度評価(B)	

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		スポーツ振興課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり		
		2. 生涯スポーツの振興を図ります		(2) スポーツ・レクリエーション機会の充実		
事業名		スポーツ・レクリエーション機会の充実				
事業概要等	事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに親しむ機会の拡充、スポーツに対する市民の関心を高めるため各種大会等を開催する。 ・「スポーツ」と「観光」を一体的に捉え、各種スポーツ大会や合宿の誘致を行うことで、田辺市のPR、市への経済効果につなげる。 				
	事業の内容・現状	<ul style="list-style-type: none"> ・市民体育祭 ・市民スポーツ・レクリエーション祭 ・ニュースポーツ教室（スポーツ推進委員協議会） ・関西実業団対抗駅伝競走大会 ・熊野古道近野山間マラソン大会 ※H24年度は第6回全国スポーツクラブ会議を実施				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	6,267	5,267	スポーツ推進委員報酬	1,830	国支出金
	決算額(千円)	6,266	5,255	市民体育祭補助金	750	県支出金
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	市民スポーツ・レクリエーション祭補助金	675	地方債
				関西実業団対抗駅伝大会補助金	1,700	その他
				熊野古道近野山間マラソン大会補助金	300	一般財源
			計	5,255	計	5,255
上記以外のH25年度の実績						
目標と達成状況	事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民が参加する市民体育祭、市民スポーツ・レクリエーション祭、ニュースポーツ教室を開催し、参加者数の増加に努める。 ・市外からの誘客につながる関西実業団対抗駅伝大会や熊野古道近野山間マラソン大会を開催し、参加者数の増加に努める。 				
	H24年度の課題に対する取組状況					
目標に対する成果と達成状況	目標に対する成果と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第37回市民体育祭の開催(29種目 3,920名参加) ※H24-29種目 3,771名参加 ・第9回市民スポーツ・レクリエーション祭の開催(15種目 1,260名参加) ※H24-15種目 1,307名参加 ・ニュースポーツ教室の開催(11種目 105名参加) ※H24-9種目 127名参加 ・第56回関西実業団対抗駅伝競走大会の開催(13チーム 約90名参加 ボランティア数 約200名) ※H24-15チーム 約105名参加 ボランティア数 約200名 ・第40回熊野古道近野山間マラソン大会の開催(約750名参加 ボランティア数 約80名) ※H24-約750名参加 ボランティア数 約80名 		自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況		課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	市民体育祭グラウンドゴルフの部については、普及に努めるべく、スポーツ推進委員協議会と公民館連絡協議会が主管で「公民館対抗戦」として実施してきたが、現在はグラウンドゴルフ協会が設立され、協会主催の大会が年間を通じて行われているとともに、各地域でも毎週のように大会が行われているなど、競技人口が増加し十分に普及され、組織の運営体制も整ってきたので、H26年度からはグラウンドゴルフ競技の主管をスポーツ推進委員協議会からグラウンドゴルフ協会に移管する。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	ニュースポーツの普及などより多くの市民が参加できる工夫をするとともに、三四六総合運動公園の完成を視野に入れてスポーツ大会やスポーツ合宿の誘致に取り組む必要がある。				評価【B】 前年度評価(B)	

(5) 国際化に対応するまちづくり

◎基本方針

市民の国際理解に対する幅広い意識の向上に努め、次代を担う子供たちの外国語教育や国際理解を深める教育などの充実を図るとともに、情報提供や相談活動、在住外国人への各種行政サービスを充実するなど、国際化に対応できるまちづくりを推進します。

ア. 国際交流を推進します

①国際交流体制の充実

- ・国際交流センターの運営

平成25年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第5節 国際化に対応するまちづくり			
		1. 国際交流を推進します		(2) 国際交流体制の充実			
事業名		国際交流センターの運営					
事業の概要等	事業の目的	外国人との交流機会を提供する事により市民レベルでの理解を深め国際交流を推進する。					
	事業の内容・現状	<p>市民総合センター3階の1部屋を事務室とし、C I R国際交流員1名（英語対応）と臨時職員1名を配置するとともに、サロンスペースを設け、情報交換や交流の場としている。</p> <p>【主な業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在住・来訪外国人に対する相談業務 ・国際交流に関する啓発事業（子どもの国際理解推進事業〔国際交流協会委託事業〕） ・ボランティアによる日本語教室の実施サポート <p>【C I R国際交流員の主な業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課から依頼された英語教室・広報取材・消防緊急対応及び翻訳通訳・助言等 ・国際交流協会（民間交流団体）が実施する子どもの国際理解推進事業への参画 ・A L T英語指導助手の生活支援・協力 <p>【H 2 5実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流センター来客数・・・・・・・・1,597人 ・語学指導への協力（通訳・翻訳含）・・・・79件 ・語学相談・生活相談等・・・・・・・・36件 ・異文化理解のための交流活動(子どもの国際理解推進事業)・・・・78人 					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	語学指導等を行う外国青年招致事業⇒国際交流員の配置					
	事業コスト	H24年度	H25年度	H25年度決算歳出節別内訳(千円)		H25年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	8,643	8,281	賃金	5,930	国支出金	
	決算額(千円)	7,282	7,412	報償費	120	県支出金	
	事業の数値実績	H24年度	H25年度	旅費	112	地方債	
	国際交流センター来客数	1,678人	1,597人	需用費	53	その他	
	語学指導への協力	96件	79件	役務費	25	一般財源	7,412
	生活相談等	33件	36件	負担金及び交付金	1,172		
	異文化理解交流活動	147件	78件	計	7,412	計	7,412
	上記以外のH25年度の実績						
目標と達成状況	事業の目標	外国人との交流を推進するため民間交流団体の活動を支援するとともに、ボランティアによる語学支援のための日本語教室の運営を充実する。					
	H24年度の課題に対する取組状況	多様化する相談への対応は、県国際交流センターなどの専門機関と連携し対応する。					
目標に対する成果と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・C I R国際交流員が「まちづくり学びあい講座」や「子どもの国際理解推進事業」を通じ、市民と触れ合う機会を提供するなど、国際交流や国際理解の推進に努めている。 ・生活相談においては、県国際交流センター等関係機関との連携により対応している。 			自己評価 (B) A : 目標を超えて達成した B : 概ね目標は達成した C : 目標を下回った D : 目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<ul style="list-style-type: none"> ・相談は多様化（語学・就労・DV等）している。 ・関係機関との連携で対応しているが限りがある。 ・人員の増配置や多言語（フィリピン・中国等）に対応できる専門員の配置が必要。 ・交流や学びを柱にしている教育委員会の国際交流センターでは、国際化全般に対する取り組みは難しく、活動の幅が制約される。 		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり				
総合評価（教育長・次長）		市民レベルでの国際交流に取り組んでいるが、外国人の相談等が複雑多様化してきており、関係機関等との連携を強化するとともに、庁内体制等の検討も必要である。				評価 【 B 】 前年度評価 (B)	

6. 田辺市教育委員会事務事業点検評価委員会の意見等について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条第 2 項の規定に基づき、教育委員会の事務事業を点検評価するにあたって、その客観性を確保する観点から、教育に関し学識経験を有する 5 名の方々により設置する評価委員会から様々なご意見、ご助言をいただきました。

(1) 評価委員会開催日

- ①第 1 回 平成 26 年 8 月 5 日
 - ・教育委員会点検評価の概要説明
 - ・評価対象事務事業の説明
 - ・質疑
- ②第 2 回 平成 26 年 8 月 28 日
 - ・評価対象事務事業に対する意見等の聴取
 - ・まとめ

(2) 評価委員会委員

(敬称略)

役 職	氏 名	所 属 等
委 員 長	久 保 正 博	田辺市社会教育委員会議議長
副委員長	中 山 篤	元学校長
委 員	重 根 誠 治	元田辺市龍神行政局長
委 員	浅 里 耕一郎	田辺市文化財審議会委員
委 員	原 拓 生	田辺市 P T A 連合会副会長

(3) 評価対象事務事業 (19 事務事業)

評価委員会では、教育委員会が点検・評価した 19 事務事業についてご意見、ご助言をいただきました。

- (1) 人を大切にするまちづくり
 - ①人権学習の推進 (生涯学習課)
- (2) 子どもをはぐくむまちづくり
 - ①教育内容の充実のための事業 (学校教育課)
 - ②JFA こころのプロジェクト・夢の教室 (スポーツ振興課)
 - ③開かれた学校づくり推進事業 (学校教育課)
 - ④学校給食の実施 (給食管理室)
 - ⑤学校施設整備事業 (教育総務課)
 - ⑥放課後子ども教室推進事業 (生涯学習課)
 - ⑦児童館活動 (芳養児童センター、天神児童館、末広児童館)

- (3) 文化のかおるまちづくり
 - ①南方熊楠翁を学ぶ機会の充実（文化振興課／南方熊楠顕彰館）
 - ②田辺市美術展覧会（市展）の開催及び文化事業の充実（文化振興課）
 - ③美術館運営事業（美術館）
 - ④世界遺産保全事業（文化振興課）
- (4) 学びを支えるまちづくり
 - ①公民館事業（生涯学習課）
 - ②学社融合研究事業（生涯学習課）
 - ③図書館管理運営事業（図書館）
 - ④田辺市まちづくり市民カレッジ（生涯学習課）
 - ⑤紀の国わかやま国体に向けての開催準備業務（国体推進室）
 - ⑥スポーツ・レクリエーション機会の充実（スポーツ振興課）
- (5) 国際化に対応するまちづくり
 - ①田辺市国際交流センターの運営（生涯学習課）

(4) 意見等と今後の取組の方向性

(1) 人を大切にするまちづくり

①人権学習の推進

【意見等】

◇人権学習のテーマについて、3年間続けてきた「防災と人権」学習会の集約をする必要があると考える。その中で地域毎の不安や課題を見つけ出すことで次のテーマにつながるとし、一つのテーマで継続するだけでなく集約と分析を今後活かしてください。

◇「防災と人権」は時節を得た優れたテーマだと考える。しかし、他のテーマも模索する必要があるのではないのでしょうか。

◇「防災と人権」をテーマとした学習会は、住民の関心の高まりとともに参加者も多いようですが、今後においても関心の高いテーマの設定により、より多くの方の参加が得られるよう計画してほしい。

◇かつて人権学習といえば「差別問題」をなくす学習としてとらえられてきた経緯があります。もちろん差別をなくす学習は人権学習の中でも重要な位置にあります。近年人権学習が「交通事故と人権」、「防災と人権」といったテーマ設定で取り組まれており、幅の広い、より身近な視点で「人を大切にする学習」が進んでいるように見えます。ただ、「防災と人権」というテーマの学習会にも参加させてもらいましたが、災害からどう逃げるかという具体的、技術的な学習に終わる心配があります。社会的弱者をどう守るか、どう助け合うかという視点、助け合う社会のシステムと優しい人間の育成をどう作り上げていくか、掘り下げた質の高い学習が必要になります。

◇重要な事業だと思います。それだけに、課題として認識されている「幅広い参加者を得るための創意工夫」をお願いします。

【今後の取組の方向性等】

◇平成 23 年の東日本大震災と台風 12 号災害以降、田辺市全体としての人権学習会のテーマについては、田辺市生涯学習（人権）推進員会議において「防災と人権」としてまいりました。そうした中、防災は人権に関わる大きな問題であり、今後においても継続して取り組まなければならない課題があるとの認識から、平成 26 年度においても「防災と人権」をテーマに取組を進めているところです。

「防災と人権」といったテーマで学習を進めるにあたっては、自助の大切さに加えて、災害時要援護者をどう守るか、また、お互いを助け合う共助の重要性などの人権の視点での学習が最も大切であるとの認識をしております。また、人権問題は多岐に渡っていることから、今後は「防災と人権」といったテーマで取り組んできた成果と課題を分析した上で、適切なテーマ設定をしてまいりたいと考えております。

今後、より多くの方々に参加してもらえよう、住民参画による企画・立案、興味や関心、当事者意識を持ってもらえるようなテーマ設定を行う必要があると考えています。

(2) 子どもをはぐくむまちづくり

①教育内容の充実のための事業

【意見等】

◇近年、学校への期待が大きくなる中、事業目的を達成するため、現場では、日々工夫や努力をされていると思います。研究事業では、その後に成果を活かしてくれていると思います。その中で、学力だけでなく様々な問題に対する（不登校・いじめ・犯罪など）メンタル的な指導も重要となります。“豊か”だけでなく“健やかでたくましい心”もお願いします。

◇様々な優れた取組をされていると思います。ただ、先生方がゆっくりと児童生徒と向き合える時間があるのか心配します。

◇「市指定教育研究事業」の指定校としてモデル校を指定し、「教育内容の充実」を推進しようという試みはそれなりに評価できると思います。ただ、中教審答申も言うように「確かな学力」の育成には「質の高い教師」の役割が大切になります。近年、学校でのパソコンの普及とともにベテラン教師と若手教師の交流が不足し、若手の教師の育成が困難になっていると聞きます。市指定教育研究事業にも若手教師の育成という視点をしっかり持つ必要があります。

◇事業の性格上、明確な目標設定（数字に表すような）は難しいのですが、「事業の目標」が目標というより手段の様に感じます。

【今後の取組の方向性等】

◇心の教育は大変重要です。知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成に取り組んでいきたいと考えています。

◇学校現場では児童生徒の指導に加えて、保護者対応や地域行事への参加等様々な活動に取り組んでいます。教育委員会としても、事務量の軽減などに努めるとともに、学校現場を支援していきたいと考えています。

◇若手教員の育成は喫緊の課題です。市指定研究発表会にもできるだけ若手の教員が参加できるようにしたいと考えています。

◇今後は目標として捉えられやすいように表現内容を精査していきます。

②開かれた学校づくり推進事業

【意見等】

◇「学社融合」の取組は、現場の負担を軽減する取組と考えているが、一部先生方の中では、今の（一時の）地域とのやりとり等を大きな負担として捉えるなど十分理解していただけていません。一人でも多くの先生が本当に理解してくれるように、今以上に取組をお願いします。

◇学社融合の取組は素晴らしいと思う。指定事業で得た成果を他の地域へ繋げてほしい。
◇各学校が発行する「学校新聞」なども町内会を通じて地域に配布されるなど、「開かれた学校づくり」が大きく進んでいるように思われます。ただ、「開かれた学校づくり」を自己目的化するのではなく、開かれた学校を通して地域の教育力を活用し、「教育内容の充実」を進めることが大切になります。現在進められている地域の郷土史家や語り部を活用した「子どもの語り部育成」や図書館、N I E 推進協議会との連携で教育内容に図書や新聞活用を進めることで教育内容（特に読解力の向上）を充実させることは大きな課題です。

【今後の取組の方向性等】

◇すべての教員がやりがいと成果の感じられる「学社融合」の取組になるよう、推進していきたいと考えています。

◇成果発表会での普及にとどまらず、あらゆる機会を捉えて、その成果を他の地域にも発信していけるよう工夫していきます。

◇地域の教育力を最大限に活用することも、大きな課題の1つです。これからも、教育内容の充実に向けて、語り部活動や新聞活用などの取組の研究を進めていきたいと考えています。

③JFAこころのプロジェクト・夢の教室

【意見等】

◇芸術と同じで、子どもの頃からトップクラスの人と接することは、とても良いことだと考えます。スポーツだけでなく幅広い「夢」を見せてあげて欲しいと思います。予算の要ることでありますが、できるだけ工夫しながら継続をお願いします。

◇この授業を通じて「夢の実現への努力」を考える子どもが 95%にまで増加しているのは大変な驚きである。また、不登校の生徒も参加したようであり関心の高さが感じられる。今後も継続して実施されることを願います。

◇JFAに限らず、機会があれば野球など他のスポーツにも「夢の教室」を拡大させてみてはいかがでしょうか。

◇トップアスリートと接することは子ども達にとって素晴らしい機会だと思う。予算の

都合もあると思いますが、多くの学校で実施してもらいたい。

◇中長期的課題として、市内すべての小学校で実施した後、事業を継続していくかどうか検討することだが、大変素晴らしい取組なので、対象を小学校5年生だけに限定するのではなく、全校・全学年を対象に市の独自事業として展開することはできないか。予算の要ることだが、市内の各スポーツ団体とも連携・協力し、場合によっては参加費等、収入を得る方策なども含めて検討してはどうか。

【今後の取組の方向性等】

◇日本サッカー協会から始まった本事業は、現在では、日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本トップリーグ連携機構も参画するスポーツ界あげての事業として発展してきており、開催回数や実施学校数、夢先生の登録数は増加傾向にあります。昨年度の田辺市においては、元プロサッカー選手以外に元プロ野球選手やアテネ五輪代表選手（トランポリン、水泳）が夢先生として教壇に立ち、児童のアンケートで好結果が確認されており、また、学校関係者からも好評価を得ています。市内全校での実施が完了する平成28年度に、4年間の実績を踏まえて事業継続の可否を判断する予定となっていますので、継続実施できるよう、今後の事業実施においても昨年度と同等以上の成果を上げることができるよう取り組んでいきたいと考えています。

◇本事業は、J F Aが様々な検討の中から事業の効果が最も高いと判断した5年生だけを対象としています。また、中学校においては、トップアスリートや全日本クラスの指導者から直接指導を受け、技術だけでなく、気持ちの面でもさらに高いレベルを目指す選手を育成する事業を実施している競技もあります。こうした状況や「夢の教室」の授業内容からして現在の対象学年は適切であると考えています。

加えて、本事業を実施するに当たり、J F Aでは夢先生の育成、教材の開発、過去の取組を踏まえた改善等を行っており、市単独で実施する場合と比べて、費用対効果の高い事業実施が出来ると考えています。

J F Aも夢先生の増員等で出来る限り自治体の要望に応じていく体制整備を進めてくれていますので、全小学校実施後も引き続き、参加費等の個人負担を必要としないJ F Aの「夢の教室」事業を継続していくことが出来るよう今後も取り組んでいきたいと考えています。

④学校給食の実施

【意見等】

◇近年、食材について多くの問題が取り上げられています。その中で、安心して安全な給食を提供できることは素晴らしいと思います。収納対策においても努力してくれています。今後もアレルギー対応や食材確保等について、全市的、また各学校としての取組をお願いします。

◇学校給食は優れた取組と考える。アレルギー対応等厳しい面もあるが、頑張っしてほしい。

◇老朽化した施設の改善を行ったのは衛生環境の向上に繋がっている。今後においても

「安全で安心」できる給食の実施に取り組んでいただきたい。

◇食の安全を守るため研修を積まれているようで感謝します。食の安全は基本中の基本です。その上で、教育現場では地産地消を基本とした食産業や食文化への関心を高めるための食育の推進に大いに期待します。

◇食品安全対策に終わりはないと言われます。必要な設備投資と調理従事者等への研修に今後も努めてもらいたい。

【今後の取組の方向性等】

◇衛生的で安全な学校給食を実施するために、学校給食関係者の衛生管理意識の一層の向上を図るとともに、今後も学校給食施設・設備の改善に努めてまいります。また、日頃から食の安全に関する情報収集に努め、学校給食食材の安全確保を図ってまいります。

◇学校給食におけるアレルギー対応については、本年3月の文部科学省「学校給食における食物アレルギー対応に関する調査研究協力者会議報告書」等の内容を踏まえ、市教育委員会の関係課が連携して学校の状況を把握するとともに、アレルギー対応に係る取組を促進していく必要があると考えています。

⑤学校施設整備事業

【意見等】

◇学校施設は地域住民としても心の支えとなっています。安全な教育環境はもとより、地域の核としても予算のある中、計画的に（できるだけ早く）お願いします。

◇老朽校舎の建替えや耐震化事業も大きく進んでいるように見えます。ただ、建設中の学校ではグラウンドが使えず、元気な子どもにとっては少々ストレスが溜まっているようです。不便は仕方ないことですが、運動会や子ども達の遊び場確保に支援が必要ではないでしょうか。

◇子ども達の安全をプライオリティとして、さらに事業を充実実施いただきたい。

【今後の取組の方向性等】

◇学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、地域コミュニティの拠点でもあり、災害時には避難場所としても活用されているため、常に安全で快適な施設環境が求められています。また、近い将来、東海・東南海・南海地震の発生が危惧されていることから、非木造の学校施設では、平成20年度に完了した耐震診断の結果に基づいて、耐震性の低い校舎等から優先して、計画的に耐震改修を実施しており、平成27年度の事業完了を目指して取組を進めています。一方、木造の学校施設についても平成26年～27年度において耐震診断を実施し、その結果をもとに整備方針を構築していきたいと考えています。

◇学校施設の耐震及び建築事業については、学校や保護者、周辺住民の皆さんと十分協議しながら、工事の作業スペースを最小限にし、できるだけ運動場や遊具を確保するとともに、体育館を開放するなどして子ども達の運動できるスペースを極力確保するよう努めています。また、運動会については、近隣のグラウンドを使用して実施するなど、できるだけ子ども達への負担を軽減できるよう努めてまいります。

◇今後も、子ども達の安全、安心を最優先に考え、施設の整備を実施していきたいと考えています。

⑥放課後子ども教室推進事業

【意見等】

◇子どもの居場所づくりとして取り組んでいるが、人的、金銭的な課題は避けられません。今後、“居場所”のつくり方や取組方を十分に検討する必要がありますが、その時に中心は「子ども」を基本としてお願いします。

◇男女共同参画の時代、放課後児童の安全を含め、子どもの居場所が大切になっている。本事業と学童保育や民間の「塾」を含めた居場所を総合的に考える時が来ていると思う。

◇最近、子ども達に対する嫌がらせや連れ去りなど異常な行動を起こす者が出現しており、社会不安は増す一方である。そんな中、放課後や週末に安心な子どもの居場所づくりに取り組んでくれるのは大変良いことだと思います。

◇共働きの家庭が増える中、今後とも必要性が高まる事業だと思われます。「人的、経済的な課題がある」と言うことですが、退職したOBの教師に助けてもらうことなどは困難なことでしょうか？また、ボランティアに頼ることなくきちんとした金銭的裏付も必要ではないでしょうか。

【今後の取組の方向性等】

◇子どもの居場所づくりについては、昨今の少子化の問題とも相まって、今や社会全体の発展に関わる最重要課題の一つとして議論されています。また、子ども達を取り巻く情勢は、「いじめ、虐待、貧困、発達障害、非行、不登校、ひきこもり、ニート」等々、社会問題として非常に深刻さを増しています。これらの諸問題に対しては、従来の縦割りの行政対応では限界がきているという考え方もあり、最近では、国においても統合的な連携による取組、支援が実施されています。文部科学省所管の幼稚園と厚生労働省所管の保育所との一元化による待機児童対策もその一つの事例ですが、今後、本市においても更に踏み込んだ関係各課連携による「子どもの居場所づくり」に取り組む必要性が出てきます。その際、人的配置とともに、財源的な問題、更には関係機関との新たな連携も含めた支援体制を充実させることが重要であると考えています。

⑦児童館活動

【意見等】

◇児童館について、すでに地域の核として活動されています。学校・家庭・地域をつなぐ児童館ではありますが、中心ならではの問題や苦悩もあると思います。その時に（市として）サポートできるように関連委員会等との連携も必要になってくるのではないのでしょうか。

◇児童館の成果を他の地域へ広めてほしい。

◇子どもの居場所づくりとともに保護者の交流の場も開設しており、子育て支援・子どもの健全育成にぜひ必要な活動である。他の地域にも必要なのではないのでしょうか。

◇校区以外全地域での課題でもあると思う。児童館活動で得たノウハウやスキルを他地区、他部門でも共有できる仕組みが必要ではないか。

【今後の取組の方向性等】

◇児童館は、これまで学校・家庭・地域社会と連携を図り、地域の拠点として中心的な役割を果たす中で、子どもが抱える教育的課題に取り組み、その解決に大きな成果を上げてきました。今後も関係機関とより連携しながら種々の取組を進めてまいりたいと考えています。また、今後は、校区だけの取組にとどまらず全市的に児童健全育成の情報発信や事業展開を積極的に進めるとともに、広く地域の教育・福祉・文化の拠点としてその機能を充実していくことが求められています。

今後の児童館活動の全市的な展開については、現在、学校・公民館を中心に各種団体と連携して、地域ぐるみで子育てを支援する学社融合事業が展開されているところですので、児童館のない地域におきましては、学社融合事業の中で、これまで児童館が培ってきたノウハウを生かし、子育て支援、健全育成に取り組みたいと考えています。

(3) 文化のかおるまちづくり

①南方熊楠翁を学ぶ機会の充実

【意見等】

◇来館者の減少による自己評価となっておりますが、施設が存在する価値は高く、必要な施設と考えています。できるだけ純粋に研究者が増えてほしいですが、観光との連携や他施設とのコラボ企画等も検討してください。

◇市内全小中学校と更に連携を図り、児童生徒を対象に来館者増につなげることは考えられないか。

◇南方熊楠顕彰館での精力的な取組が田辺の文化的知名度を高めていると思います。ただ、顕彰館の企画や展示内容は専門性が高く、研究者向きのものになっています。「熊楠を支える若手人材の育成」という課題を考えるなら、小、中、高校生向きの易しい企画も必要かと思われます。

◇国の事業を活用するなどして事業の広がりを感じます。

【今後の取組の方向性等】

◇顕彰館の役割として、①所有する蔵書や資料等による熊楠研究、②田辺観光協会と連携した町中の観光施設、③南方熊楠の知名度を高めることによる田辺の認知度向上の3つがあります。来館者数の減少により観光施設としての役割は十分でなかった面はありましたが、25年度は、まち歩きの観光客用のクーポン「おもてな商店街」に協力しました。研究の成果を活かした月例展は「熊楠とゆかりの人々」を継続して身近な人々を取り上げ、夏休みには小学生等を対象に特別講座を開催し、隔年で白浜の南方熊楠記念館とゼミナールを実施しています。試行錯誤を繰り返しながら、今後も学校、観光協会、記念館等と連携を図り、3つの役割の充実に努めます。

②田辺市美術展覧会（市展）の開催及び文化事業の実施

【意見等】

◇毎年、工夫し取り組んでいただいています。今回初めて行ったアンケートの結果を活かして次年度事業に繋げてくれると期待しています。継続してアンケートを実施し、来館者の意見を集め、分析をお願いします。

◇文化事業は多くの市民に鑑賞してほしい。そのための広報にしっかり努めてもらいたいと思います。

【今後の取組の方向性等】

◇市展のアンケートは、より多くの方に記入していただけるよう工夫を凝らして継続し、市展の充実に活かしていきます。

◇文化事業の広報は、広報田辺やホームページへの掲載のほか、新聞記事、広告、折り込み、ポスター、チラシ等により実施しておりますが、より効果的な広報に努めます。

③美術館運営事業**【意見等】**

◇美術館運営について、様々な催しを取り入れた工夫がされています。来館者の増加は評価でき、限られた予算ではありますが、今後も工夫した運営をお願いします。

◇両美術館ともすばらしい建物とコレクションがある。さらなる来館者増に向けて創意工夫を発揮していただきたい。

【今後の取組の方向性等】

◇本館、分館とも今後も記念講演会、ワークショップをはじめとした各種講座や地元NPO主催イベントへの協賛などの活動を積極的に実施していくことで、少しでも多くの方々に美術館を訪れていただけるよう取り組んでいきたいと考えています。また、これからもコレクションの充実を図り、その研究成果を公開する事業を継続していきたいと考えています。

④世界遺産保全事業**【意見等】**

◇当事業について、課題の総括、総合評価には「概ね適切に」管理・実施となっておりますが、保全事業において、「概ね」以上の管理はどうすればできるのか？予算の問題か、人的な問題かなど、評価Aに向けて何をやる必要があるのか検討をお願いします。

◇熊野古道は、3年前の台風12号による被害からようやく復旧し、一安心ですが、災害の多い本県ですから今後ともハード面での安全対策と保全事業に力を入れる必要があります。ソフト面では、たとえ世界遺産の指定が無くとも関連した史跡や文化財の保存にも力を入れるべきです。また、対象文化財を一部の研究者のものに終わらせることなく、広く地域住民のものにするために地域の文化財を学ぶ機会を作るべきです。一部の文化財審議委員だけでなく市民全体で熊野（郷土）への関心を高め、保全への協力関係を培う必要があると思います。

【今後の取組の方向性等】

◇熊野古道は国の史跡であり、世界遺産にも登録されていることから、保全管理についてはあくまでも原状保存が大原則となります。古道の維持、特に修繕方法等には制限があり、専門知識を有する職員等の指導のもとで実施する必要があります。熊野古道の保全は、定期や災害時の緊急パトロールを怠ることなく実施し、経年劣化の激しい木橋や柵、路肩補強や路面の保護のほか、災害等による被害からの復旧など、適切に保全のための措置を講じていくことが務めと認識しています。また現在、未指定・未登録の古道や関連文化財については、国史跡への指定とその後の世界遺産追加登録に向けた取組を一部進めているほか、その他の文化財についても、指定等の措置を講じていきたいと考えています。

また、世界遺産（熊野古道）のソフト面での活動については、過去に牛馬童子事件のようなこともあることから、世界遺産を確実に後世に伝えていくための学習や啓発活動を行っていく必要性を感じており、道普請活動や保護の最前線現場の公開、調査成果の報告会など、文化財の学習機会の充実に、関係機関とも連携しながら取り組んでいきたいと考えています。

(4) 学びを支えるまちづくり

①公民館事業

【意見等】

◇公民館事業については、公民館主事、館長、分館長によって各々違いができる可能性が大きい。今後も公民館主事と地域の信頼関係を高め、地域ごとの取組を期待しています。
◇課題の総括に「公民館は、地域づくりや地域活性化のための拠点になるようその役割を果たしていくことが求められている。」とある。公民館主事が積極的に地域・町内会活動へ参画されることを期待しています。

◇様々な取組に感謝しています。

◇地域において公民館主事への期待は大きい。力量向上をさらにお願ひします。

【今後の取組の方向性等】

◇近年、生涯学習の場における、公民館の果たすべき役割が多岐にわたり求められ、その期待は非常に大きなものとなってきています。公民館では多種多様なニーズに対応しながら、地域課題の解決や新たな価値の創造に向けた事業展開を図っているところであり、公民館が地域づくりや地域活性化のための拠点となるよう、町内会をはじめ、地域の各種団体や関係教育機関と密接に連携を図りながら、それぞれの地域の特色を生かした取組を行っています。そうした中、公民館と町内会との連携は非常に大切なことであると認識しており、公民館主事の地域・町内会活動への参画につきましては、それぞれの地域の実情を踏まえ、十分協議をしながら対応していく必要があると認識しています。

また、今後におきましても、地域の期待に応えるべく、更に公民館職員の力量向上を図る取組を充実させていきたいと考えております。

②学社融合研究事業

【意見等】

◇学社融合は、教育現場だけでなく、取り巻く地域の活力ともなります。また、父兄等の学校に対する協力も必要となる。様々な事業との関連もあり、地域づくりにおいても一つの柱として避けられない。事業を継続的に全市的に取り組むとともに、サポート体制も含めて進めてください。

◇全ての地域で推進してほしい。

◇「融合フォーラム」が開催され、単に理念だけでなく具体的な事業内容についても話し合われたと思います。ハード面での「学校・公民館共有コミュニティ」づくりで満足することなく、今後どういう中身を作り上げていくか課題です。鍵は老人力や地域力の活用です。かつて市内下万呂の（故）清水政治さんが万呂公民館長時代に取られた「老人と子供の歴史教室」のように昔の文化や歴史を体験的に学ばせる企画も一つのモデルになるのではないのでしょうか。

【今後の取組の方向性等】

◇田辺市教育委員会では、田辺市教育行政教育方針の最重要項目として「学社融合の推進」を位置づけており、学校・家庭・地域の教育力向上を図りながら子どもの健全育成に取り組む体制づくりと地域の特色ある教育づくりに努めています。

文部科学省の補助事業を活用した共育コミュニティ本部事業や、学校と公民館を同時に研究指定し、実践と研究に取り組んだ成果を市全域へ普及させる学社融合研究事業をはじめ、市内全ての公民館、幼稚園、小中学校において、家庭や地域と連携しながら地域の特色を生かした取組を展開し、学社融合の全市的な向上を図っています。

今後におきましても学社融合事業を継続し、中身をより充実させ、子どもの学力向上と学校・家庭・地域の教育力の向上を図っていくとともに、子ども達が地域の高齢者の方から昔の文化や歴史を学ぶなどのふるさと学習により、郷土に誇りと愛着を持ち、大人になって地元に戻ってきたいと思えるような取組を展開していくことも必要であると考えています。

③図書館管理運営事業

【意見等】

◇読書推進活動や移動図書館をはじめ、様々な取組を行っています。今後も、課題のとおりに問題の解決に向けて取り組んでください。

◇県立図書館（ビッグU）は地域とは離れそれ自体で小さな街になっているが、市の図書館は街中にあるので所在地域を巻き込んだ取組はできないものか。

◇いつも図書館を利用させてもらっている。蔵書の数も多く大変重宝していますが、分室の本の入れ替えなどは行わないのか。

【今後の取組の方向性等】

◇田辺市立図書館も開館後3年目を迎え、様々な取組を行っていますが、利用者を増やす上での課題は残されています。まずは更なる資料の充実と職員の資質向上に努めます。また、街中にある図書館としての活動ですが、この建物については、基本構想のコンセ

プトとして、田辺市の中心市街地の活性化に繋がることを謳っています。交流ホールを使って地域の方々の写真や絵画をはじめとする各種作品展や、生活に密着した話題で周辺の方が集えるような健康講座等も開催しています。身近にあって様々な情報を提供できる生涯学習センターとしての役割にも力を注いでいきたいと考えています。さらに、龍神・大塔・中辺路・本宮にある各分室については、それぞれ月毎に新刊書等を購入し、蔵書の充実に努めています。分室には、25年度末で、約6万2000冊ありますが、各分室から要求があれば本館との相互利用も可能であり、本館・分室の隔たりなくサービスの均一化を図っています。

④田辺市まちづくり市民カレッジ

【意見等】

◇3年間を通してプログラム設定等努力されました。市民カレッジ、コーディネーター養成講座を含め、修了生が地域でのリーダーとしても活躍してくれています。今後は、各地域が主役として学習機会を継続するとともに、全市的にステップアップした学習機会の提供を期待します。

◇自立した市民を育成し、積極的に地域創りをする人材を育成しようとしている。自立した市民は、行政への要望も多くなる。それを覚悟で是非とも進めてほしい。「学習から実践へ」受講生の活躍を期待します。

◇地域づくりのリーダー養成に期待します。

【今後の取組の方向性等】

◇教育委員会主催の人材育成においては、従来型の学び・学習的な考えのもと参加される方がいる一方、最近では、いわゆる住民自治や自発的な発展を考える積極的な地域づくりに携わる方々の参画もあり、より積極的に実践に関する問題解決の手法を学ぼうとする姿勢や生涯学習の機会提供が求められています。今期から新たに始まる人材育成講座『縁』パワーメント講座では、官民協働による企画委員会を立ち上げるとともに、実践事例から学び・学習する視点を強化し、かつ社会教育や生涯学習とは異なる分野の視点を参考にすることも検討しています。また、地域課題に対しても優先的な課題であるかなど、地域の方が先の有り様を考えることの重要性も加味した講座カリキュラムとなっています。

⑤紀の国わかやま国体に向けての開催準備業務

【意見等】

◇リハーサル大会、本大会の成功に向けて各団体との連携協力を密にして取り組んでください。また、終了後のことも含めた計画についても十分に検討を重ねてください。

◇成功に向けて準備に取り組んでいること心強く思います。リハーサル大会なども始まっているようですが、本番に向けて万全を期していただきたい。

◇開催準備に多忙のことと思います。市民ぐるみの国体にするためにも、地元紙などを利用しながら市内の開催競技の解説などしてPRを進め、市民的関心を高める必要があ

ります。

【今後の取組の方向性等】

◇リハーサル大会も前半2競技が終了し、後半の2競技と一年後の本番に向けて、現在、各種関係団体と細部について綿密な協議を重ねながら準備を進めているところです。国体開催後の施設利用及び各競技団体の合宿誘致等につきましても、施設管理担当課へ情報を提供しながら連携して進めていきたいと考えています。

国体を成功させるためには、市民が一丸となって当市を訪れる方々を「おもてなしの心」でお迎えすることはもとより、この機会に田辺市の魅力を県外の方々に発信していくことが重要であると認識しています。そのためにも、現在、広報誌やラジオ、各種イベントや講演会への参加をはじめ、ホームページでの情報発信等によるPR活動を実施していますが、今後は更に、報道機関へ情報を提供しながら、市民への周知とボランティアや会場観戦等による市民の方々の参加についても働きかけてまいります。

⑥スポーツ・レクリエーション機会の充実

【意見等】

◇「スポーツ」と「観光」を一体的に捉えるとともに、「スポーツ」と「学校教育」との連携はとれないでしょうか？クラブ活動とスポーツ振興での連携は、多くの問題があると思いますが、子ども達の選択肢が増えることも検討の余地があると思います。

◇生涯スポーツの振興にとって、国体の開催と関連施設の整備は大きなチャンスだと思います。また、大会後の各種スポーツ大会や合宿誘致のためにも今からその準備を進める必要があろうかと思えます。

◇新施設はスポーツ合宿など交流人口増加への大いなるチャンスである。国体等現地入りした時こそ最大の営業チャンスである。観光部局等との連携を図りながら強力で推進していきたい。

【今後の取組の方向性等】

◇市民体育祭や市民スポーツ・レクリエーション祭の開催競技の中には、小中学生が参加できる競技もあります。これらの競技には、クラブ活動やクラブチームに所属している小中学生も出場しています。また、評価対象事業ではありませんが、市立のスポーツ施設を利用して小中学生が出場する各種の大会も開催されています。今後とも、小中学生を含め幅広い年代の方がスポーツに親しむ機会の提供に努めていきたいと考えています。

◇国体終了後の新施設を活用したスポーツ合宿や大会の誘致による交流人口の増大につきましても、既に田辺西牟婁の市町のスポーツ担当部局と観光部局で「南紀エリアスポーツ合宿誘致推進協議会」を設立し、広域連携による取組の準備を進めており、国体の好機を逃がさぬようPRしていきたいと考えています。

(5) 国際化に対応するまちづくり

①田辺市国際交流センターの運営

【意見等】

◇外国人との交流機会の提供により、人権問題についての取組にも繋がります。現状に合わせて人員の確保を望みますが、(専門員)無理であれば対応できる体制の工夫をお願いします。「“人”が安心して住める田辺市」を目指してください。

◇世界遺産の登録を機会に熊野を訪れる外国人も増えていると聞きます。異文化理解のためにも国際交流センターの果たす役割は益々高まっています。ただ、英語ができないとどうも敷居が高いと感じている一般市民も多いのではないかと思います。「市民レベルでの理解を深め、国際交流を推進する」とありますから、気軽に交流できるような企画に期待します。また、中学生を対象として「古道の語り部育成事業」で英語の案内文を作る試みも素晴らしい企画なので、ぜひ成功させたいものです。

◇外国人の定住・交流人口とも増加することは間違いないと思います。体制の整備が急務ではないでしょうか。

【今後の取組の方向性等】

◇地域課題と同様、昨今のグローバル化や国際化により本市を取り巻く状況は非常に多岐にわたる問題を浮き彫りにしております。国際化に関する問題もその一つで、特に在住外国人の方には語学支援の問題とともに、就労支援、更には人権問題と留まることが無い状況です。しかしながら、教育委員会部局に位置する生涯学習課国際交流センターにおいては、人的な配置はもとより昨今の国際化全てに対応することは、言語能力一つをとっても多言語対応が物理的に不可能に近いのが現状です。一方、来訪される外国人の方々に対しては、民間団体が主体的に活動の中を広げていることから、連携・協力できる部分をより積極的に拡大していくことが現状での最善策であると考えています。

7. おわりに

地方分権が進む中で、地方における教育委員会の責任と役割はますます重要となっております。

こうした中、毎年、事務事業の執行の状況について点検・評価し、その改善策を検討し、これを実行に移す。この過程を公表していくことは、教育委員会の果たすべき役割とその意義を広く市民の皆様にお知らせする絶好の機会であると考えています。

今後とも開かれた教育行政の実現を図るため、「点検・評価」を継続的に実施し、その結果を広く公表してまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成 26 年度（平成 25 年度対象）
田辺市教育委員会点検・評価報告書

平成 26 年 9 月

田辺市教育委員会

〒646-0028

和歌山県田辺市高雄一丁目 23 番 1 号

- ◆TEL 0739-26-9941（直通：教育総務課）
- ◆FAX 0739-24-8323
- ◆Email kyouiku@city.tanabe.lg.jp